

大泉町「子どもの生活」実態調査
報 告 書

平成28年8月

目次

■ 調査の概要	P. 1
---------------	------

■ 分析集計結果

1 児童生徒編	P. 2
---------------	------

◆設問1 「どのような特徴をもつ子が、自分のことが好きではない（自己肯定感が低い）のか。」	P. 3
---	------

◎設問1のまとめ	P. 8
----------------	------

◆設問2 「学校の時間以外、どこで過ごしている子どもが、「ひとりぼっちだと思う」孤独感を感じやすいか。」	P. 9
--	------

◎設問2のまとめ	P. 15
----------------	-------

◆設問3 「学校の時間以外、どこで過ごしている子どもが、「安心してほっとできる場所がない」と感じやすいか。」	P. 16
--	-------

◎設問3のまとめ	P. 22
----------------	-------

◆設問4 「だれが一番話を聞いてくれると、子どもは孤独感を感じにくい。また、話を聞いてくれる人の存在と安心してほっとできる場所に関連性はあるか。」	P. 23
---	-------

◎設問4のまとめ	P. 27
----------------	-------

◆設問5 「朝食を抜く子は、どの学年が多いか。また、男女差はあるのか。」	P. 28
--	-------

◎設問5のまとめ	P. 31
----------------	-------

◆設問6 「家族の人数が少ないこと（核家族化やひとり親）により、
孤独感を感じる子が増えるのか。」…………… P. 32
◎設問6のまとめ…………… P. 34

2 保護者編 …………… P. 35

◆設問1 『「家族全体の収入の合計額」と「子どもの学習環境」に
は、どのような相関関係が見られるのか。』…………… P. 36
◎設問1のまとめ…………… P. 44

◆設問2 「家族全体の収入が低い世帯はどのような世帯か。また、
家族構成による子ども関連の支出に何か特徴はあるか。」… P. 45
◎設問2のまとめ…………… P. 51

◆設問3 「どのような世帯の保護者が、学習支援への参加希望が
高いのか。」…………… P. 52
◎設問3のまとめ…………… P. 59

◆設問4 「食事の提供を含む食生活改善が必要なのはどのような
世帯か」…………… P. 60
◎設問4のまとめ…………… P. 66

■ 見えてきた課題…………… P. 67

■ 調査の概要

1 調査の目的

全国的に子どもの貧困対策が求められている中、町内の小中学校に通う児童生徒及びその保護者の生活状況等を把握し、本町に必要な事業を検討する基礎資料とするため本調査を実施した。

2 調査期間及び回収率等

調査の対象者、調査方法などは以下のとおり。

調査期間	①児童生徒：平成28年2月15日（月）～19日（金） ②保護者：平成28年2月18日（木）～22日（月）
調査対象者	①児童生徒：町内の小学4年～中学3年生 2,102人 ②保護者：町内の小学1年～中学3年生の保護者 3,091人
調査実施方法	①児童生徒： ・各学校へ調査票を配布し、児童生徒への記入を依頼。 ・記入後、学校で回収し、福祉課へ提出。 ②保護者： ・各学校の児童生徒を通じて保護者へ調査票を配布し、記入を依頼。 ・記入後、児童生徒を通じて学校で回収し福祉課へ提出。
調査書配布数	①児童生徒：2,075人 ②保護者：3,070人
回収	①児童生徒：1,990人 ②保護者：2,580人
回収率	①児童生徒：95.9% ②保護者：84.0%
調査地域	町内全域の小中学校

3 分析結果

アンケート調査の単純集計結果を踏まえ、さらに全体的な傾向を分析し、今後の町の施策に生かすために、アンケート項目の中からいくつかの設問を設定し、それらを検証することとした。設定した設問、及び検証、結果、まとめを次頁以降に記載した。

※1人の回答者が2つ以上の回答をしている質問及び無回答の質問がある。

兒童生徒編

◆設問 1

どのような特徴をもつ子どもが、自分のことが好きではない（自己肯定感が低い）のか。

【検証 1－1】

「Q5－4じまんでできることがある」と「Q5－1自分のことが好き」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

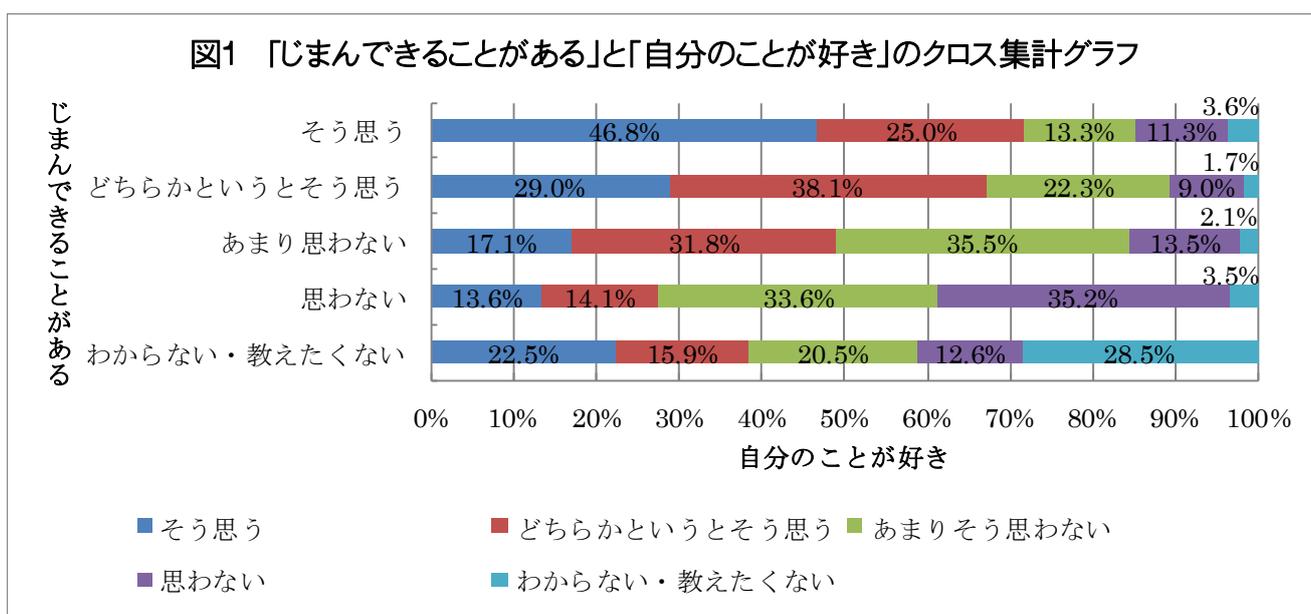
表1 「じまんでできることがある」と「自分のことが好き」のクロス集計表

Q5-1 自分のことが好き

【単位:人(%)】

Q5-4	そう思う	どちらかという そう思う	あまりそう思わ ない	思わない	わからない・教え たくない
じまんでできる ことがある そう思う	116(46.8%)	62(25.0%)	33(13.3%)	28(11.3%)	9(3.6%)
じまんでできる ことがある どちらかという そう思う	139(29.0%)	183(38.1%)	107(22.3%)	43(9.0%)	8(1.7%)
じまんでできる ことがある あまりそう思わ ない	122(17.1%)	227(31.8%)	253(35.5%)	96(13.5%)	15(2.1%)
じまんでできる ことがある 思わない	50(13.6%)	52(14.1%)	124(33.6%)	130(35.2%)	13(3.5%)
じまんでできる ことがある わからない・教え たくない	34(22.5%)	24(15.9%)	19(12.6%)	19(12.6%)	43(28.5%)

図1 「じまんでできることがある」と「自分のことが好き」のクロス集計グラフ



【結果 1-1】

「じまんでできることがある」という質問に「思わない」と回答した子どものグループでは、「自分のことが好き」に「そう思う」が 13.6%、「思わない」が 35.2%である。

これに対し、「じまんでできることがある」という質問に「そう思う」と回答した子どものグループでは、「自分のことが好き」に「そう思う」が 46.8%、「思わない」が 11.3%と回答している。

「じまんでできることがある」に「思わない」と回答した子ほど「自分のことが好きでない」割合が高く、「じまんでできることがある」に「そう思う」と回答した子ほど「自分のことが好き」な割合が高い。

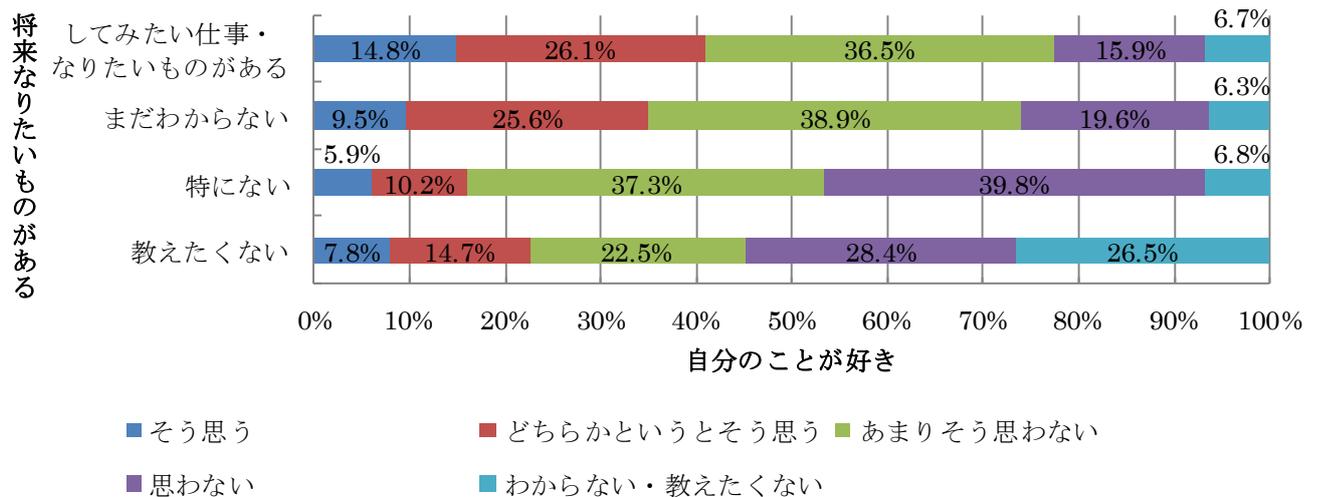
【検証 1－2】

「Q3 将来なりたいものがある」と「Q5－1 自分のことが好き」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表2 「将来なりたいものがある」と「自分のことが好き」のクロス集計表

		Q5-1 自分のことが好き				【単位:人(%)】
		そう思う	どちらかという そう思う	あまりそう思わ ない	思わない	わからない・教え たくない
Q3 将来 なり たい もの が あ る	してみたい仕事・ なりたいものがある	185(14.8%)	326(26.1%)	455(36.5%)	198(15.9%)	83(6.7%)
	まだわからない	48(9.5%)	129(25.6%)	196(38.9%)	99(19.6%)	32(6.3%)
	特にない	7(5.9%)	12(10.2%)	44(37.3%)	47(39.8%)	8(6.8%)
	教えたくない	8(7.8%)	15(14.7%)	23(22.5%)	29(28.4%)	27(26.5%)

図2 「将来なりたいものがある」と「自分のことが好き」のクロス集計グラフ



【結果 1－2】

「将来どのような仕事をしてみたいですか。又は何になりたいですか」という質問に「してみたい仕事・なりたいものがある」子どものグループでは、「自分のことが好き」に「そう思う」が14.8%、「思わない」が15.9%である。

また、「将来どのような仕事をしてみたいですか。又は何になりたいですか」に「特にない」と回答した子どものグループでは、「自分のことが好き」に「そう思う」が5.9%、「思わない」が39.8%である。

【検証 1 - 3】

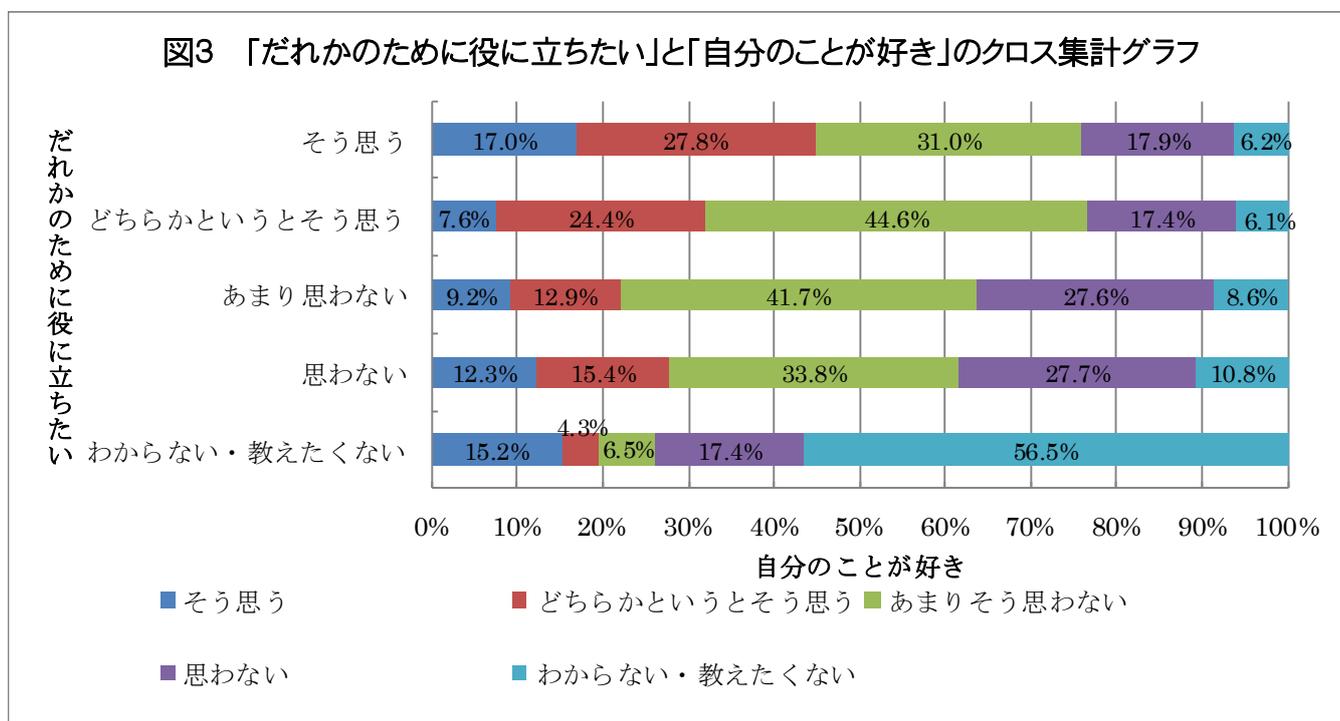
「Q5 - 3 だれかのために役に立ちたい」と「Q5 - 1 自分のことが好き」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表3 「だれかのために役に立ちたい」と「自分のことが好き」のクロス集計表

Q5-1 自分のことが好き 【単位:人(%)】

		そう思う	どちらかという そう思う	あまりそう思わ ない	思わない	わからない・教え たくない
Q5-3 だれかのために役に立ちたい	そう思う	164(17.0%)	268(27.8%)	299(31.0%)	172(17.9%)	60(6.2%)
	どちらかという そう思う	55(7.6%)	177(24.4%)	323(44.6%)	126(17.4%)	44(6.1%)
	あまりそう思わ ない	15(9.2%)	21(12.9%)	68(41.7%)	45(27.6%)	14(8.6%)
	思わない	8(12.3%)	10(15.4%)	22(33.8%)	18(27.7%)	7(10.8%)
	わからない・教え たくない	7(15.2%)	2(4.3%)	3(6.5%)	8(17.4%)	26(56.5%)

図3 「だれかのために役に立ちたい」と「自分のことが好き」のクロス集計グラフ



【結果 1－3】

「だれかのために役に立ちたい」に「そう思う」と回答した子どものグループでみると、「自分のことが好き」に「そう思う」が 17.0%、「思わない」が 17.9%と回答している。また、「だれかのために役に立ちたい」に「思わない」と回答した子どものグループでは、「自分のことが好き」に「そう思う」が 12.3%、「思わない」が 27.7%である。

◎設問 1

『どのような特徴をもつ子どもが、自分のことが好きではない（自己肯定感が低い）のか。』のまとめ

・「自慢できることがない。」

「自慢できることがある子は自分のことが好き」という傾向がある。

自分のことが好きではない（自己肯定感が低い）子どもの特徴として、「自慢できることがない」ことが挙げられる。

・「将来してみたい仕事・なりたいものがない。」

自分のことが好きではない（自己肯定感が低い）子どもの特徴として、「将来してみたい仕事・なりたいものがない」ことが挙げられる。

・「誰かのために役に立ちたいと思わない。」

自分のことが好きではない（自己肯定感が低い）子どもの特徴として、「誰かのために役に立ちたいと思わない」ことが挙げられる。

【自己肯定感を育む方法】

・「自慢できることをつくる」

自慢できることがあると、自信がつき、自己肯定感につながる。

・「将来の夢をもつ」

将来なりたいもの、やりたい仕事があると、やるべきことの方角性が決まり、自己肯定感に結びつく。

・「人の役に立ちたい」

人からの感謝や承認が、自己肯定感に結びつく。

◆設問 2

学校の時間以外、どこで過ごしている子どもが、「ひとりぼっちだ
と思う」孤独感を感じやすいか。

【検証 2-1】

「Q7-1 平日の放課後どこで過ごすか」と「Q5-2 ひとりぼっちだと思う」の回答者
について、クロス集計により分析を行った。

表4 「平日（月～金曜日）の放課後は、どこで過ごすか」の回答表【単位：人】

	自分の家	祖父母の家	児童館の学 童保育所	児童館	友だち の家	町の施設（町民体育 館・図書館など）	学校の校 庭	公園	塾・習い事・ス ポーツ教室	その他	教えた くない
回答数	1,712	122	17	30	182	51	75	93	698	74	42
構成比	55.3%	3.9%	0.5%	1.0%	5.9%	1.6%	2.4%	3.0%	22.5%	2.4%	1.5%

表5 「平日の放課後どこで過ごすか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計表

Q5-2 ひとりぼっちだと思う

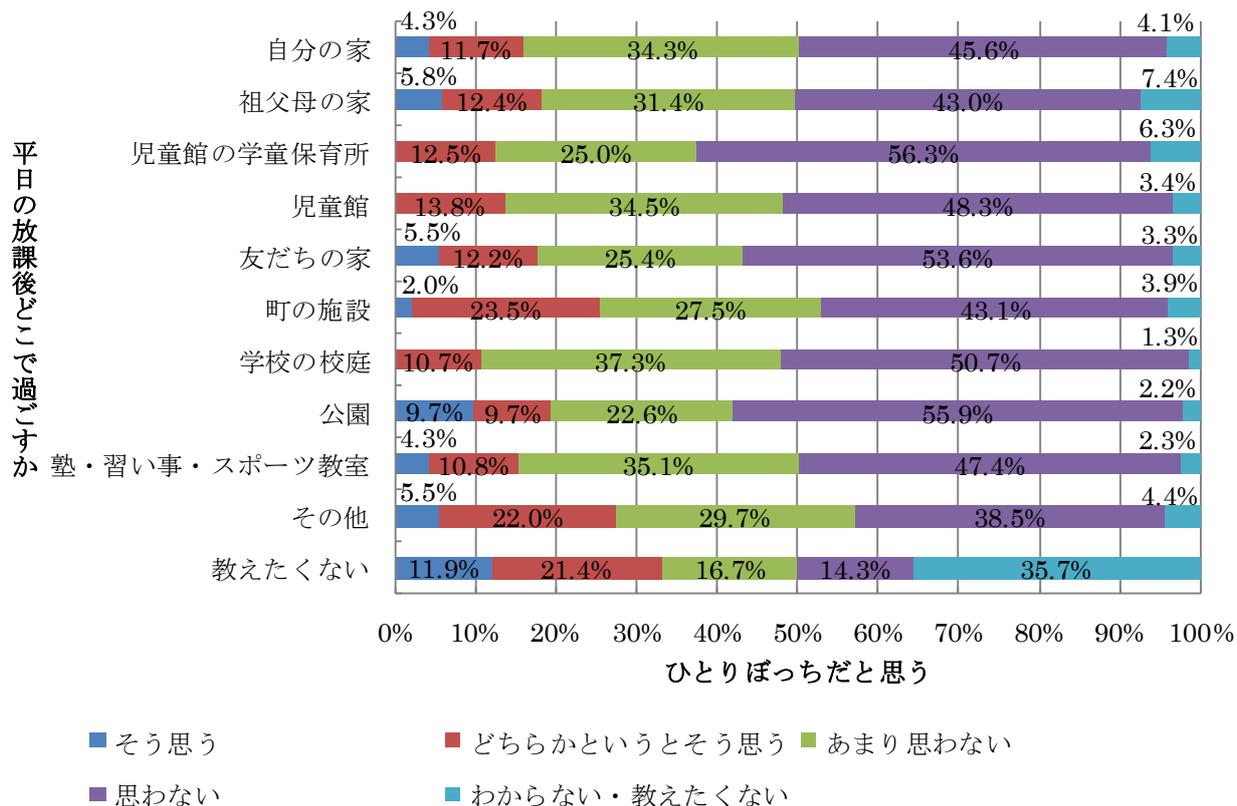
【単位：人（%）】

Q7-1

平日の放課後どこで過ごすか

	そう思う	どちらかという そう思う	あまりそう思わない	思わない	わからない・教えたく ない
自分の家	73(4.3%)	199(11.7%)	583(34.3%)	776(45.6%)	69(4.1%)
祖父母の家	7(5.8%)	15(12.4%)	38(31.4%)	52(43.0%)	9(7.4%)
児童館の学童保育所	0(0.0%)	2(12.5%)	4(25.0%)	9(56.3%)	1(6.3%)
児童館	0(0.0%)	4(13.8%)	10(34.5%)	14(48.3%)	1(3.4%)
友だちの家	10(5.5%)	22(12.2%)	46(25.4%)	97(53.6%)	6(3.3%)
町の施設	1(2.0%)	12(23.5%)	14(27.5%)	22(43.1%)	2(3.9%)
学校の校庭	0(0.0%)	8(10.7%)	28(37.3%)	38(50.7%)	1(1.3%)
公園	9(9.7%)	9(9.7%)	21(22.6%)	52(55.9%)	2(2.2%)
塾・習い事・ スポーツ教室	30(4.3%)	75(10.8%)	243(35.1%)	328(47.4%)	16(2.3%)
その他	5(5.5%)	20(22.0%)	27(29.7%)	35(38.5%)	4(4.4%)
教えたくない	5(11.9%)	9(21.4%)	7(16.7%)	6(14.3%)	15(35.7%)

図4 「平日の放課後どこで過ごすか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計グラフ



【結果 2-1】

表 4 から、平日の居場所としては、「自分の家」という回答が 55.3% と最も多かった。

また、平日の放課後にどこで過ごしている子が孤独感を感じやすいのか。平日の放課後の居場所別に、「ひとりぼっちだと思う」という質問に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した子の割合をみると高い順に、町の施設 (25.5%)、公園 (19.4%) である。

なお、自分の居場所を教えたくないと回答した子は、「ひとりぼっちだと思う」という質問に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した子が 33.3%、「わからない・教えたくない」と回答した子が 35.7% である。

【検証 2-2】

「Q7-2 休日どこで過ごすか」と「Q5-2 ひとりぼっちだと思う」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表6 「休日どこで過ごすか」の回答表

【単位：人】

	自分の家	祖父母の家	児童館の学 童保育所	児童館	友だち の家	町の施設（町民体育 館・図書館など）	学校の校 庭	公園	塾・習い事・ス ポーツ教室	その他	教えたく ない
回答数	1,634	210	2	6	320	132	60	102	513	135	52
構成比	51.6%	6.6%	0.1%	0.2%	10.1%	4.2%	1.9%	3.2%	16.2%	4.3%	1.6%

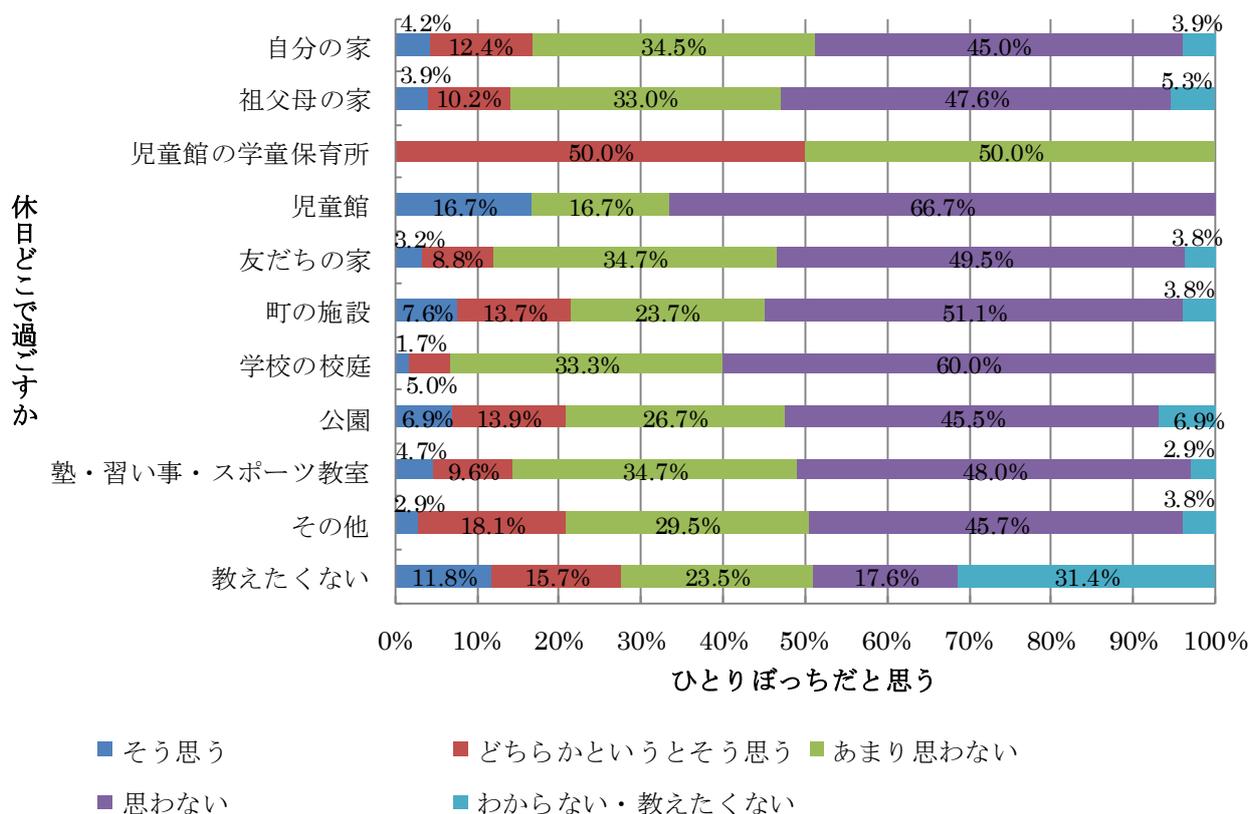
表7 「休日どこで過ごすか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計表

Q5-2 ひとりぼっちだと思う

【単位：人（%）】

		そう思う	どちらかという とそう思う	あまりそう思わ ない	思わない	わからない・教えたく ない
Q7-2 休 日 ど こ で 過 す か	自分の家	68(4.2%)	202(12.4%)	562(34.5%)	732(45.0%)	63(3.9%)
	祖父母の家	8(3.9%)	21(10.2%)	68(33.0%)	98(47.6%)	11(5.3%)
	児童館の学童保育所	0(0.0%)	1(50.0%)	1(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	児童館	1(16.7%)	0(0.0%)	1(16.7%)	4(66.7%)	0(0.0%)
	友だちの家	10(3.2%)	28(8.8%)	110(34.7%)	157(49.5%)	12(3.8%)
	町の施設	10(7.6%)	18(13.7%)	31(23.7%)	67(51.1%)	5(3.8%)
	学校の校庭	1(1.7%)	3(5.0%)	20(33.3%)	36(60.0%)	0(0.0%)
	公園	7(6.9%)	14(13.9%)	27(26.7%)	46(45.5%)	7(6.9%)
	塾・習い事・スポーツ 教室	24(4.7%)	49(9.6%)	177(34.7%)	245(48.0%)	15(2.9%)
	その他	6(2.9%)	38(18.1%)	62(29.5%)	96(45.7%)	8(3.8%)
	教えたくない	6(11.8%)	8(15.7%)	12(23.5%)	9(17.6%)	16(31.4%)

図5 「休日どこで過ごすか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計グラフ



【結果 2-2】

表 6 から、休日（土・日・祝祭日）の居場所としては、「自分の家」という回答が 51.6% と最も多かった。

また、休日（土・日・祝祭日）にどこで過ごしている子が孤独感を感じやすいのか。休日の居場所別に、「ひとりぼっちだと思う」という質問に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した子の割合をみると高い順に、町の施設(21.3%)、公園(20.8%)である。(割合としては、児童館の学童保育所(50.0%)が高かったが、回答者が 1 人であり、学童保育は休日では土曜日のみの実施であるため、今回は除外した。)

なお、休日の自分の居場所を教えたくないと回答した子で、「ひとりぼっちだと思う」という質問に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した子は 27.5% であり、「わからない・教えたくない」と回答した子は 31.4% である。

【検証 2 - 3】

「Q7-3 春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」と「Q5-2 ひとりぼっちだと思う」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表 8 「春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」の回答表 【単位：人】

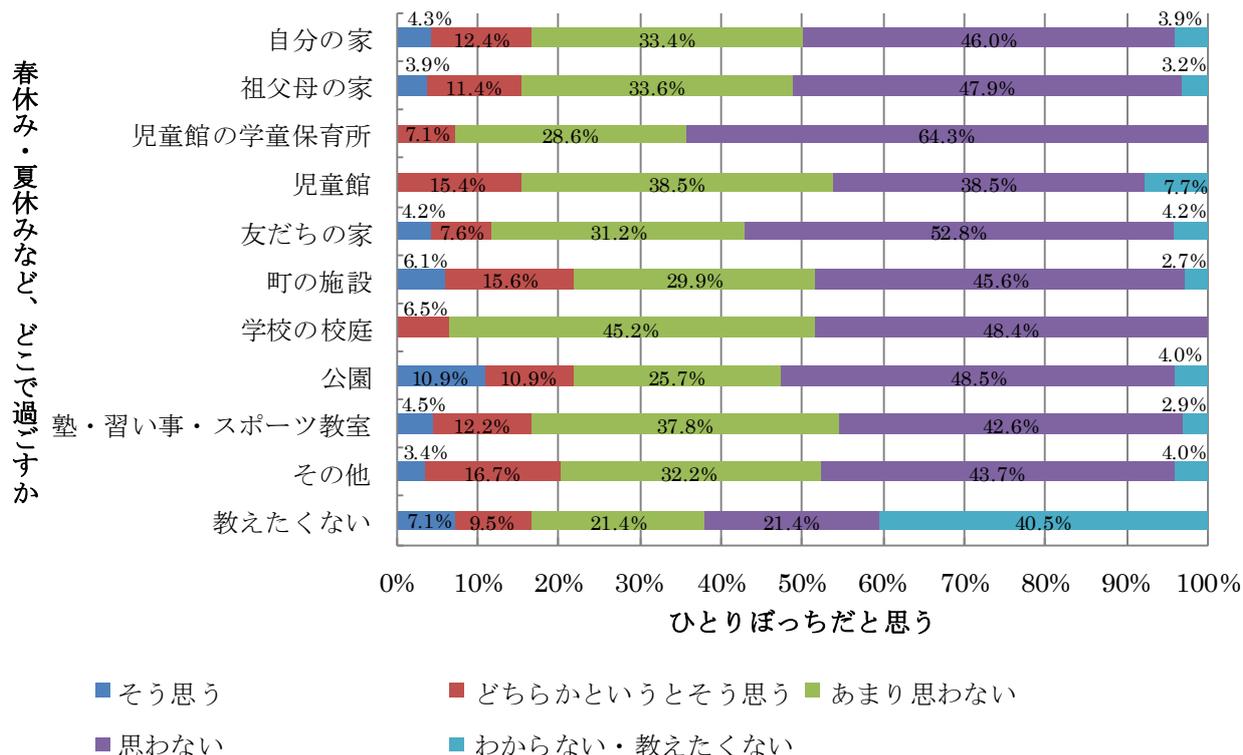
	自分の家	祖父母の家	児童館の学 童保育所	児童館	友だち の家	町の施設（町民体育 館・図書館など）	学校の校 庭	公園	塾・習い事・ス ポーツ教室	その他	教えて くない
回答数	1,628	414	14	26	410	149	31	102	379	116	42
構成比	49.2%	12.5%	0.4%	0.8%	12.4%	4.5%	0.9%	3.1%	11.4%	3.5%	1.3%

表 9 「春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計表

Q5-2 ひとりぼっちだと思う 【単位：人（%）】

Q7-3		そう思う	どちらかというそ う思う	あまりそう思わな い	思わない	わからない・教え たくない
春 休 み ・ 夏 休 み な ど 、 ど こ で 過 す か	自分の家	69(4.3%)	200(12.4%)	541(33.4%)	745(46.0%)	63(3.9%)
	祖父母の家	16(3.9%)	47(11.4%)	138(33.6%)	197(47.9%)	13(3.2%)
	児童館の学童保育所	0(0.0%)	1(7.1%)	4(28.6%)	9(64.3%)	0(0.0%)
	児童館	0(0.0%)	4(15.4%)	10(38.5%)	10(38.5%)	2(7.7%)
	友だちの家	17(4.2%)	31(7.6%)	127(31.2%)	215(52.8%)	17(4.2%)
	町の施設	9(6.1%)	23(15.6%)	44(29.9%)	67(45.6%)	4(2.7%)
	学校の校庭	0(0.0%)	2(6.5%)	14(45.2%)	15(48.4%)	0(0.0%)
	公園	11(10.9%)	11(10.9%)	26(25.7%)	49(48.5%)	4(4.0%)
	塾・習い事・スポーツ 教室	17(4.5%)	46(12.2%)	142(37.8%)	160(42.6%)	11(2.9%)
	その他	6(3.4%)	29(16.7%)	56(32.2%)	76(43.7%)	7(4.0%)
教えてくない	3(7.1%)	4(9.5%)	9(21.4%)	9(21.4%)	17(40.5%)	

図6 「春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計グラフ



【結果 2-3】

表8から、春休み・夏休みなどの居場所としては、「自分の家」という回答が49.2%である。

また、春休み・夏休みなどにどこで過ごしている子が孤独感を感じやすいのか。居場所別に、「ひとりぼっちだと思う」という質問に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した子の割合をみると高い順に、公園(21.8%)、町の施設(21.7%)である。

なお、春休み・夏休みなどの自分の居場所を教えたくないと回答した子で、「ひとりぼっちだと思う」という質問に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した子は16.6%で高くはなかったが、「わからない・教えたくない」と回答した子が40.5%である。

◎設問 2

『学校の時間以外、どこで過ごしている子どもが、「ひとりぼっちだと思う」孤独感を感じやすいか。』のまとめ

・「ひとりぼっちだと思うの質問に「あまり思わない」「思わない」と回答した子は7～8割程度いる中で、平日の放課後、休日、長期休暇ともに、町の施設や公園にいる子は、孤独感を感じやすい傾向にある」

・「自分の居場所を教えたくない子は、ひとりぼっちだと思うかどうかにも答えたくない。」
自分の居場所を「教えたくない」と回答した子は、ひとりぼっちだと思うかどうかについて「教えたくない」と回答した割合が高かった。

◆設問3

学校の時間以外、どこで過ごしている子どもが、「安心してほっとできる場所がない」と感じやすいか。

【検証3-1】

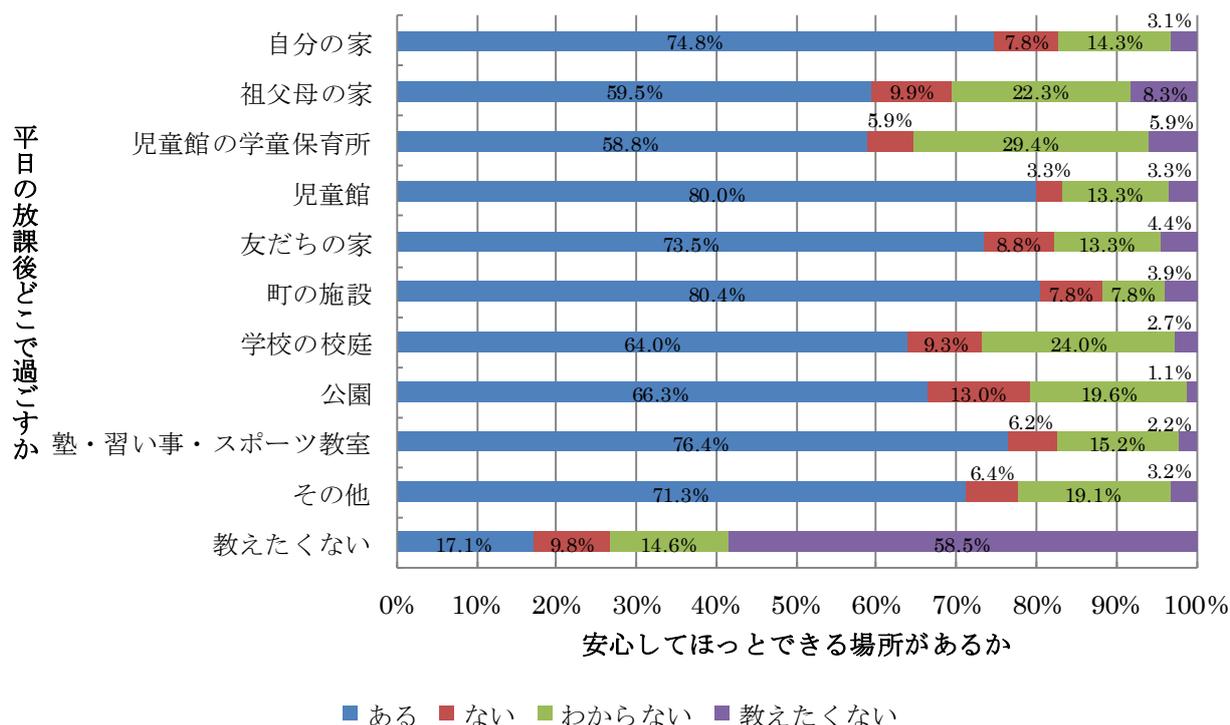
「Q7-1 平日の放課後どこで過ごすか」と「Q8 安心してほっとできる場所があるか」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表10 「平日の放課後どこで過ごすか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計表

Q8 安心してほっとできる場所があるか 【単位:人(%)】

Q7-1	ある	ない	わからない	教えたくない
平日の放課後どこで過ごすか				
自分の家	1,273(74.8%)	133(7.8%)	243(14.3%)	52(3.1%)
祖父母の家	72(59.5%)	12(9.9%)	27(22.3%)	10(8.3%)
児童館の学童保育所	10(58.8%)	1(5.9%)	5(29.4%)	1(5.9%)
児童館	24(80.0%)	1(3.3%)	4(13.3%)	1(3.3%)
友だちの家	133(73.5%)	16(8.8%)	24(13.3%)	8(4.4%)
町の施設	41(80.4%)	4(7.8%)	4(7.8%)	2(3.9%)
学校の校庭	48(64.0%)	7(9.3%)	18(24.0%)	2(2.7%)
公園	61(66.3%)	12(13.0%)	18(19.6%)	1(1.1%)
塾・習い事・スポーツ教室	532(76.4%)	43(6.2%)	106(15.2%)	15(2.2%)
その他	67(71.3%)	6(6.4%)	18(19.1%)	3(3.2%)
教えたくない	7(17.1%)	4(9.8%)	6(14.6%)	24(58.5%)

図7 「平日の放課後どこで過ごすか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計グラフ



【結果 3-1】

平日の放課後、どこにいる子が、「安心してほっとできる場所がない」と回答したのか。割合の高い順にみると、公園（13.0%）、祖父母の家（9.9%）、学校の校庭（9.3%）であった。これに対し、割合が低かったのは、児童館（3.3%）や児童館の学童保育所（5.9%）であった。

また、「安心してほっとできる場所がある」と回答した割合が高かったのは、町の施設（80.4%）、児童館（80.0%）であった。ただし、表4や結果2-1のとおり、平日の放課後の居場所としては、「自分の家」という回答が55.3%、1,712人と最も多く、平日の放課後に自分の家にいる子でも、「安心してほっとできる場所がない」と回答した子が7.8%、133人である。

なお、平日の放課後の自分の居場所を「教えたくない」と回答した子どもは、「安心してほっとできる場所があるか」を「教えたくない」と回答した子が多かった。

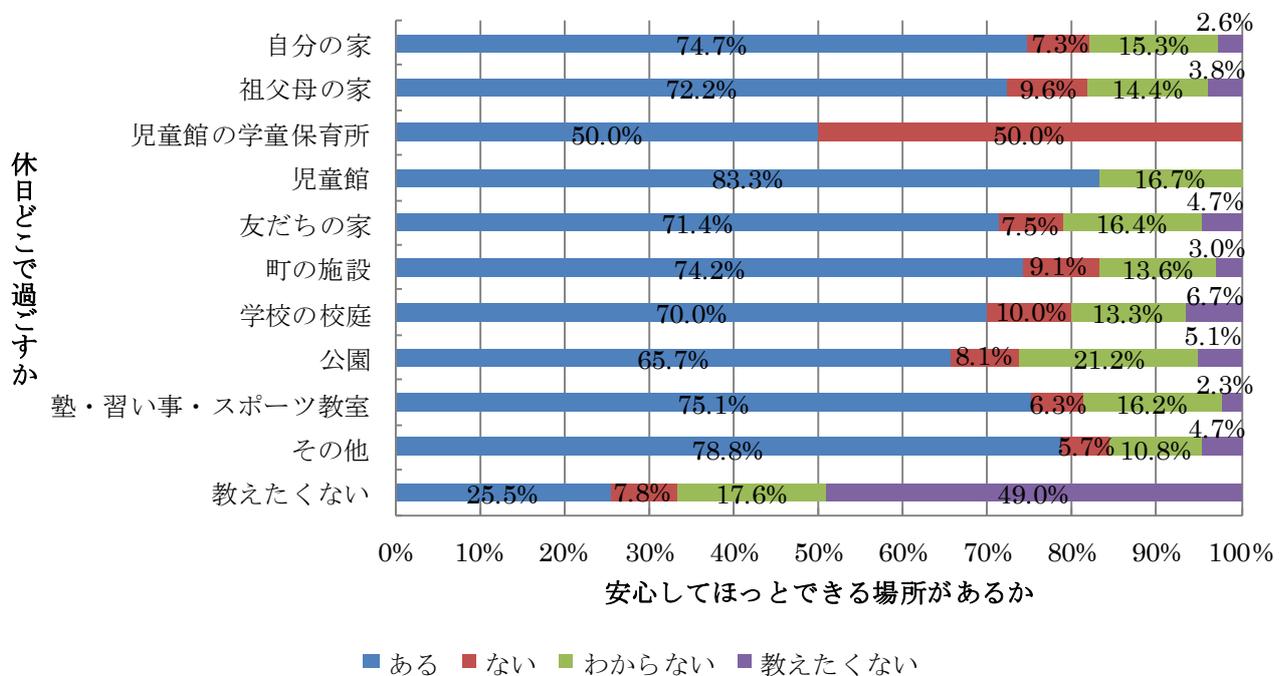
【検証3-2】

「Q7-2 休日どこで過ごすか」と「Q8 安心してほっとできる場所があるか」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表11 「休日どこで過ごすか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計表

		Q8 安心してほっとできる場所があるか			
		ある	ない	わからない	教えたくない
Q7-2 休日どこで過ごすか	自分の家	1,215(74.7%)	119(7.3%)	249(15.3%)	43(2.6%)
	祖父母の家	151(72.2%)	20(9.6%)	30(14.4%)	8(3.8%)
	児童館の学童保育所	1(50.0%)	1(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	児童館	5(83.3%)	0(0.0%)	1(16.7%)	0(0.0%)
	友だちの家	227(71.4%)	24(7.5%)	52(16.4%)	15(4.7%)
	町の施設	98(74.2%)	12(9.1%)	18(13.6%)	4(3.0%)
	学校の校庭	42(70.0%)	6(10.0%)	8(13.3%)	4(6.7%)
	公園	65(65.7%)	8(8.1%)	21(21.2%)	5(5.1%)
	塾・習い事・スポーツ教室	384(75.1%)	32(6.3%)	83(16.2%)	12(2.3%)
	その他	167(78.8%)	12(5.7%)	23(10.8%)	10(4.7%)
	教えたくない	13(25.5%)	4(7.8%)	9(17.6%)	25(49.0%)

図8 「休日どこで過ごすか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計グラフ



【結果3-2】

休日、どこにいる子が「安心してほっとできる場所がない」と回答した割合が高かったかをみると、学校の校庭(10.0%)、祖父母の家(9.6%)、町の施設(9.1%)であった。(割合としては、児童館の学童保育所(50.0%)があったが、回答者が1人であり、学童保育は休日では土曜日のみの実施であったため、今回は除外した。)これに対し、割合が低かったのは、児童館(0.0%)や塾・習い事・スポーツ教室(6.3%)、自分の家(7.3%)であり、上位と下位とで割合にそれほど差がない。

なお、自分の居場所を教えたくない子は、安心してほっとできる場所があるかを「教えたくない」と回答した子が多かった。

【検証3-3】

「Q7-3 春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」と「Q8 安心してほっとできる場所があるか」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

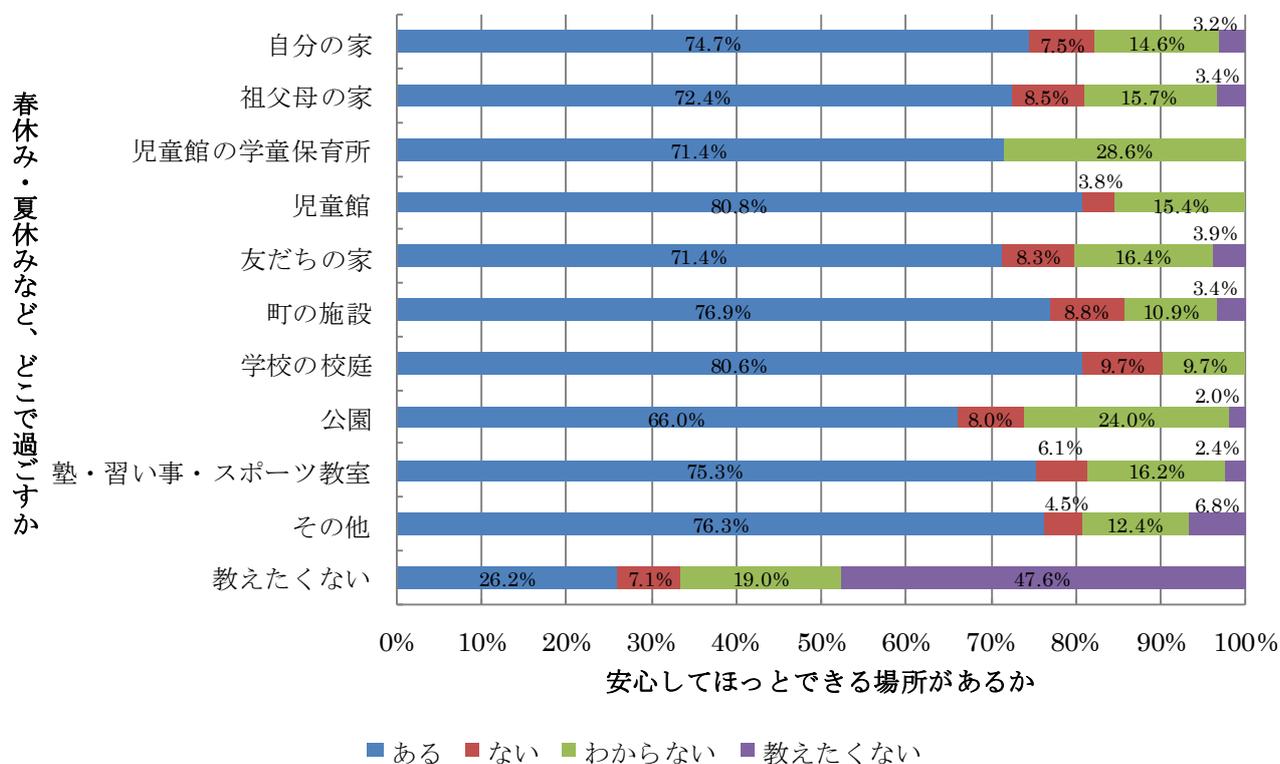
表12 「春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計表

Q8 安心してほっとできる場所があるか

【単位:人(%)】

Q7-3	ある	ない	わからない	教えたくない
自分の家	1,211(74.7%)	122(7.5%)	236(14.6%)	52(3.2%)
祖父母の家	299(72.4%)	35(8.5%)	65(15.7%)	14(3.4%)
児童館の学童保育所	10(71.4%)	0(0.0%)	4(28.6%)	0(0.0%)
児童館	21(80.8%)	1(3.8%)	4(15.4%)	0(0.0%)
友だちの家	292(71.4%)	34(8.3%)	67(16.4%)	16(3.9%)
町の施設	113(76.9%)	13(8.8%)	16(10.9%)	5(3.4%)
学校の校庭	25(80.6%)	3(9.7%)	3(9.7%)	0(0.0%)
公園	66(66.0%)	8(8.0%)	24(24.0%)	2(2.0%)
塾・習い事・スポーツ教室	283(75.3%)	23(6.1%)	61(16.2%)	9(2.4%)
その他	135(76.3%)	8(4.5%)	22(12.4%)	12(6.8%)
教えたくない	11(26.2%)	3(7.1%)	8(19.0%)	20(47.6%)

図9 「春休み・夏休みなど、どこで過ごすか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計グラフ



【結果 3 - 3】

春休み・夏休みなど、どこにいる子が「安心してほっとできる場所がない」と回答した割合が高いかをみると、学校の校庭 (9.7%)、町の施設 (8.8%) 祖父母の家 (8.5%) であった。これに対し、割合が低かったのは、児童館の学童保育所 (0%) や児童館 (3.8%) であった。

なお、安心してほっとできる場所があるかを「教えたくない」と回答した子どもは、自分がどこで過ごすかを教えたくない子が多い。

◎設問3

『学校の時間以外、どこで過ごしている子どもが、「安心してほっとできる場所がない」と感じやすいか。』のまとめ

- ・ 7～8割の子が「安心してほっとできる場所がある」と回答している。
- ・ 次の場所で過ごすことが多い子は、「安心してほっとできる場所がない」と回答した割合が高い。
 - ①平日の放課後は、「公園」「祖父母の家」「学校の校庭」
 - ②土、日曜日、祝日などの休日は、「学校の校庭」「祖父母の家」「町の施設」
 - ③春休みや夏休みでは、「学校の校庭」「町の施設」
- ・ 「安心してほっとできる場所がない」と回答した子の割合では、場所による差はそれほど大きくない。

◆設問 4

だれが一番話を聞いてくれると、子どもは孤独感を感じにくいのか。

また、話を聞いてくれる人の存在と安心してほっとできる場所に関する連性はあるか。

【検証 4-1】

「Q6 誰が一番話を聞いてくれますか」と「Q5-2 ひとりぼっちだと思う」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表 13 「誰が一番話を聞いてくれますか」の回答表

【単位：人】

	親	学校の先生	友達	兄弟姉妹	塾や習い事の先生	児童館の先生	祖父母	いない	その他	合計
回答数	1,039	40	628	124	15	0	47	90	30	2,013
構成比	51.6%	2.0%	31.2%	6.2%	0.7%	0.0%	2.3%	4.5%	1.5%	100%

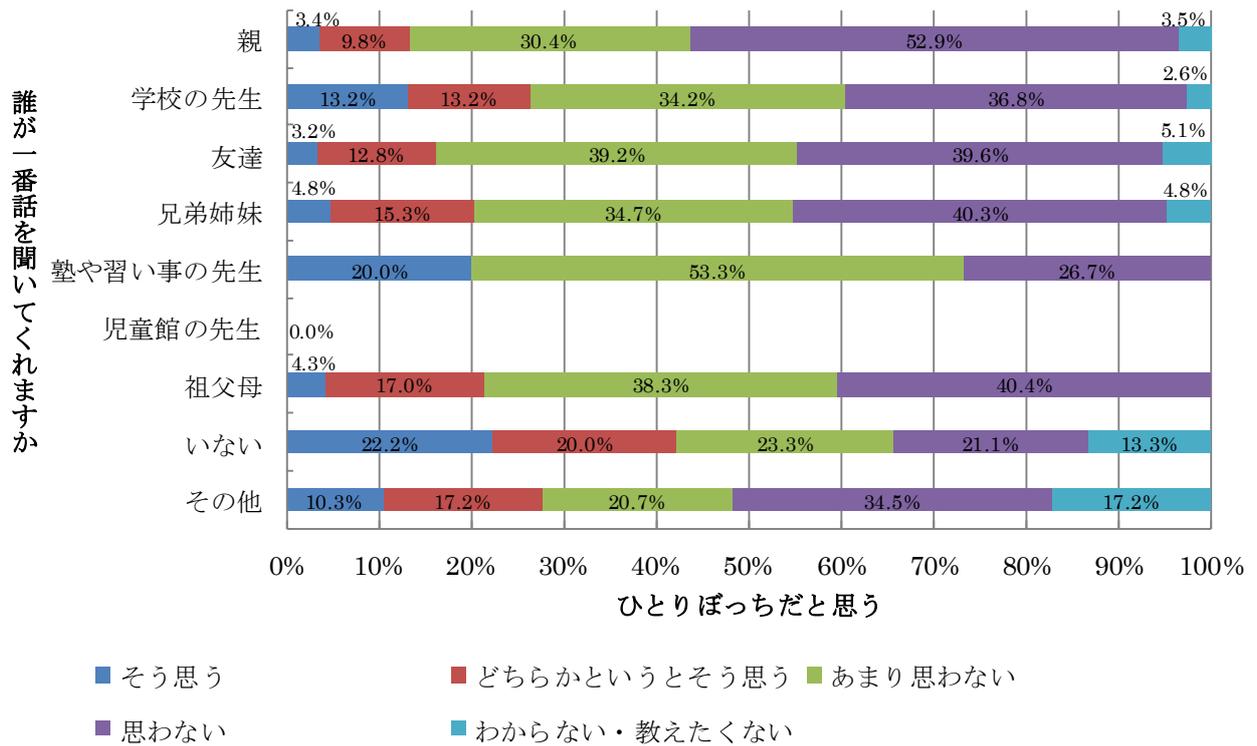
表 14 「誰が一番話を聞いてくれますか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計表

Q5-2 ひとりぼっちだと思う

【単位：人（%）】

Q6 誰が一番話を聞いてくれますか	そう思う	どちらかという とそう思う	あまり思わない	思わない	わからない
親	35 (3.4%)	101 (9.8%)	314 (30.4%)	546 (52.9%)	36 (3.5%)
学校の先生	5 (13.2%)	5 (13.2%)	13 (34.2%)	14 (36.8%)	1 (2.6%)
友達	20 (3.2%)	80 (12.8%)	244 (39.2%)	247 (39.6%)	32 (5.1%)
兄弟姉妹	6 (4.8%)	19 (15.3%)	43 (34.7%)	50 (40.3%)	6 (4.8%)
塾や習い事の先生	3 (20.0%)	0 (0.0%)	8 (53.3%)	4 (26.7%)	0 (0.0%)
児童館の先生	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
祖父母	2 (4.3%)	8 (17.0%)	18 (38.3%)	19 (40.4%)	0 (0.0%)
いない	20 (22.2%)	18 (20.0%)	21 (23.3%)	19 (21.1%)	12 (13.3%)
その他	3 (10.3%)	5 (17.2%)	6 (20.7%)	10 (34.5%)	5 (17.2%)

図10 「誰が一番話を聞いてくれますか」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計グラフ



【結果 4 - 1】

表 1 3 より、話を一番聞いてくれる割合が高い人は、親 1,039 人 (51.6%)、友達 628 人 (31.2%)、兄弟姉妹 124 人 (6.2%) となっており、親と友達で 8 割以上を占める。

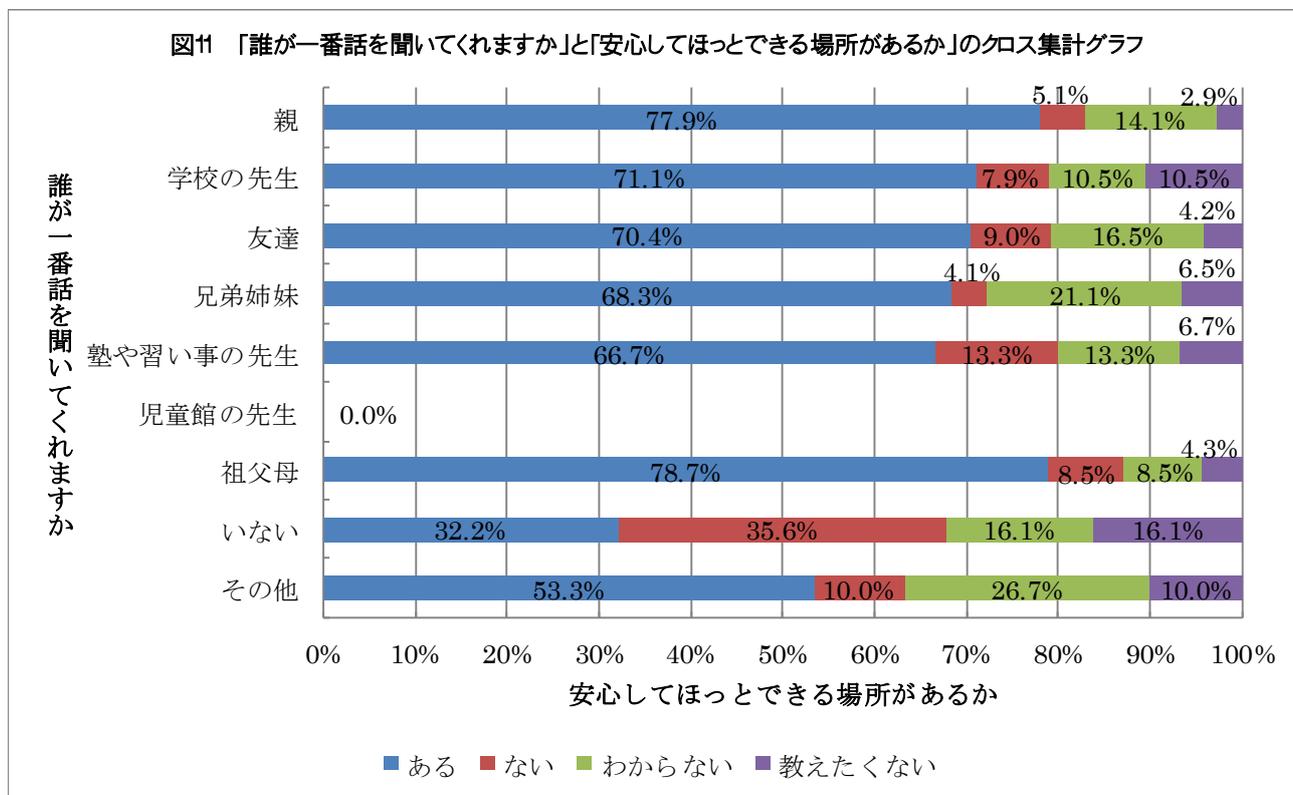
また、一番話を聞いてくれる人別に、「ひとりぼっちだと思う」に「そう思う」と回答した子の割合をみると、「いない」22.2%、「塾や習い事の先生」20.0%、「学校の先生」13.2%、「兄弟姉妹」4.8%、「祖父母」4.3%、「親」3.4%、「友達」3.2%である。

【検証 4 - 2】

「Q6 誰が一番話を聞いてくれますか」と「Q8 安心してほっとできる場所があるか」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表15 「誰が一番話を聞いてくれますか」と「安心してほっとできる場所があるか」のクロス集計表

		Q8 安心してほっとできる場所があるか			
		はい	いいえ	わからない	教えたくない
Q6 誰が一番話を聞いてくれますか	親	805(77.9%)	53(5.1%)	146(14.1%)	30(2.9%)
	学校の先生	27(71.1%)	3(7.9%)	4(10.5%)	4(10.5%)
	友達	440(70.4%)	56(9.0%)	103(16.5%)	26(4.2%)
	兄弟姉妹	84(68.3%)	5(4.1%)	26(21.1%)	8(6.5%)
	塾や習い事の先生	10(66.7%)	2(13.3%)	2(13.3%)	1(6.7%)
	児童館の先生	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	祖父母	37(78.7%)	4(8.5%)	4(8.5%)	2(4.3%)
	いない	28(32.2%)	31(35.6%)	14(16.1%)	14(16.1%)
	その他	16(53.3%)	3(10.0%)	8(26.7%)	3(10.0%)



【結果4-2】

表15から、一番話を聞いてくれる人別に、「安心してほっとできる場所がない」と回答した子の割合をみると、一番話を聞いてくれる人が「いない」35.6%、「塾や習い事の先生」13.3%に対し「親」5.1%、「兄弟姉妹」4.1%である。

また、「安心してほっとできる場所がある」と回答した子の割合をみると、「祖父母」78.7%、「親」77.9%、「学校の先生」71.1%、「友達」70.4%、「兄弟姉妹」68.3%、「塾や習い事の先生」66.7%、「いない」32.2%となっている。

◎設問 4

『だれが一番話を聞いてくれると、子どもは孤独感を感じにくい
か。また、話を聞いてくれる人の存在と安心してほっとできる場所
に関連性はあるか。』のまとめ

・「家族や友達など身近な人に話を聞いてくれる人がいないと、ひとりぼっちだと思う。」

友達や親、兄弟姉妹に話を聞いてもらえれば、ひとりぼっちだと感じることは少ない。しかし、友達や家族に話を聞いてくれる人がいなく、学校の先生や塾・習い事の先生が一番話をきいてくれる人だと、ひとりぼっちであると感じる子が増える。さらに、「話を聞いてくれる人がいない」と、ひとりぼっちだと思う割合はさらに高くなる。

・「話を聞いてくれる人がいないと、安心してほっとできる場所もない。」

「話を聞いてくれる人がいない」と回答した子では、「安心してほっとできる場所もない」と回答する子が多い。

また、「安心してほっとできる場所がない」と答えた子の割合を、話をきいてくれる人別にみると、「兄弟姉妹」や「親」が話を聞いてくれていると安心できる場所があることが多く、「塾や習い事の先生」「友達」「学校の先生」では、安心してほっとできる場所がないと回答した子の割合は少し高くなる。さらに、「話を聞いてくれる人がいない」と回答した子は、安心してほっとできる場所がないと回答する割合も高かった。

◆設問 5

朝食を抜く子は、どの学年が多いか。また、男女差はあるのか。

【検証 5-1】

「Q1 学年」と「Q2 朝ご飯は食べてますか」についてクロス集計を行った。

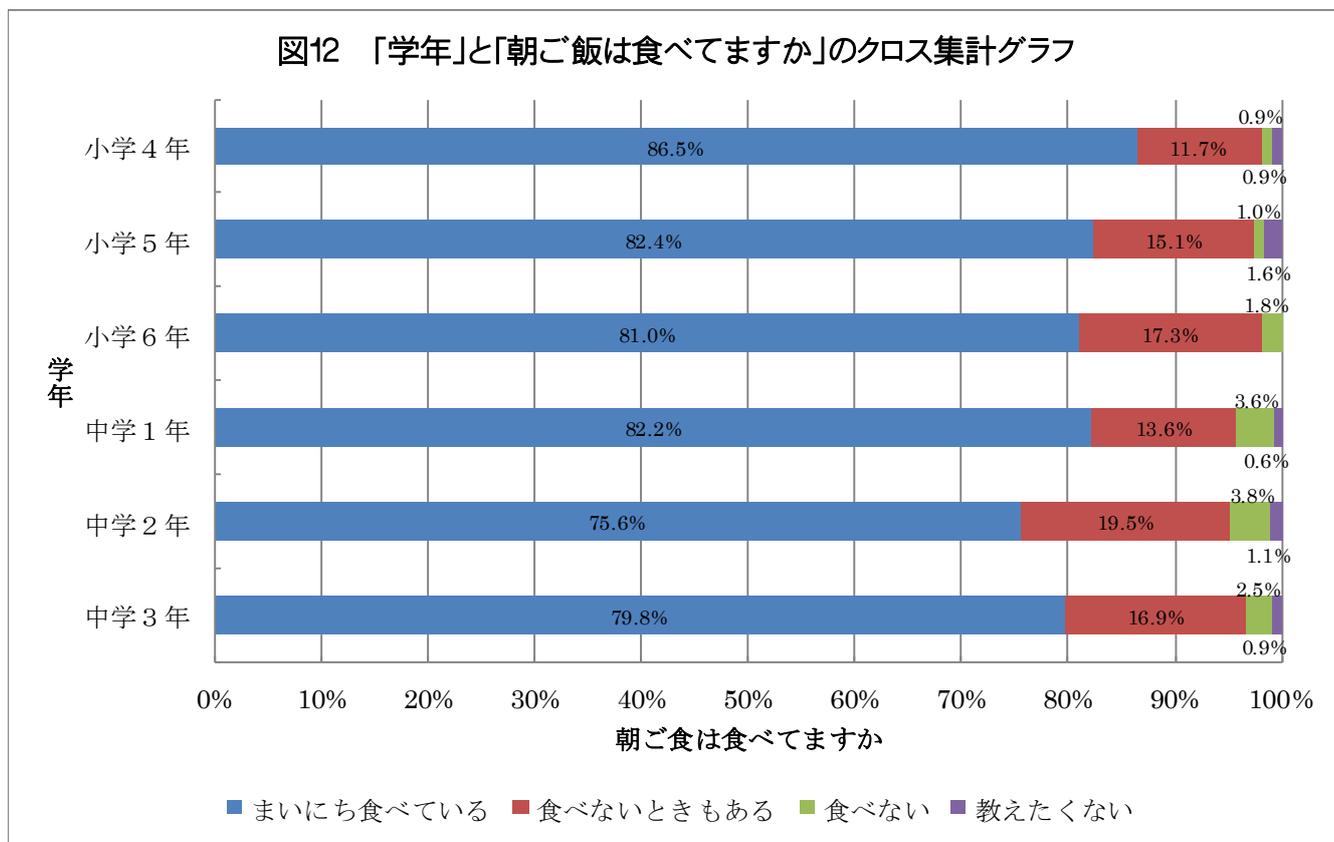
表16 「学年」と「朝ご飯は食べてますか」のクロス集計表

Q2 朝ご飯は食べてますか

【単位:人(%)】

		まいにち食べている	食べないときもある	食べない	教えたくない
Q1 学年	小学4年	281(86.5%)	38(11.7%)	3(0.9%)	3(0.9%)
	小学5年	257(82.4%)	47(15.1%)	3(1.0%)	5(1.6%)
	小学6年	277(81.0%)	59(17.3%)	6(1.8%)	0(0.0%)
	中学1年	254(82.2%)	42(13.6%)	11(3.6%)	2(0.6%)
	中学2年	279(75.6%)	72(19.5%)	14(3.8%)	4(1.1%)
	中学3年	260(79.8%)	55(16.9%)	8(2.5%)	3(0.9%)

図12 「学年」と「朝ご飯は食べてますか」のクロス集計グラフ



【結果5－1】

「まいにち食べている」と回答した子は、小学4年で86.5%、小学5年で82.4%、小学6年で81.0%、中学1年で82.2%、中学2年で75.6%、中学3年で79.8%であった。

また、「食べない」と回答した子は、小学4年で0.9%、小学5年で1.0%、小学6年で1.8%、中学1年で3.6%、中学2年で3.8%、中学3年で2.5%であった。

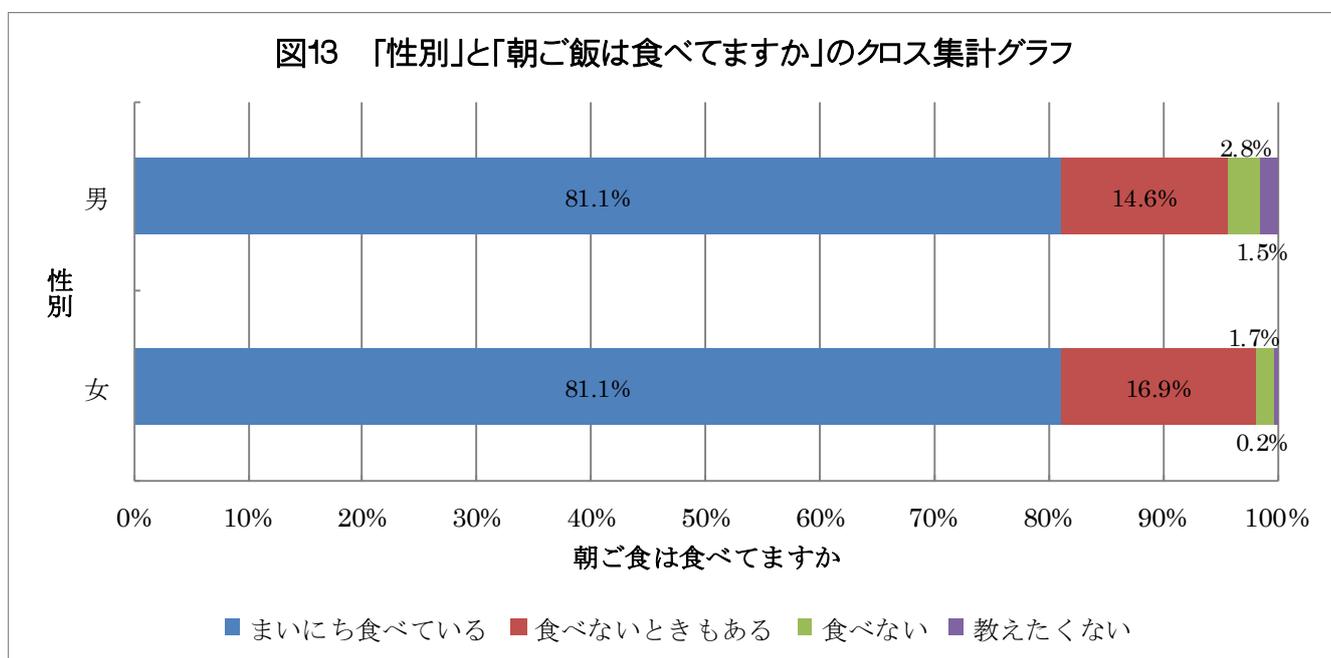
【検証5-2】

「Q1 性別」と「Q2 朝ご飯は食べてますか」にてクロス集計を行った。

表17 「性別」と「朝ご飯は食べてますか」のクロス集計表

		Q2 朝ご飯は食べてますか			【単位：人 (%)】
Q1	性別	まいにち食べている	食べないときもある	食べない	教えたくない
	男	807 (81.1%)	145 (14.6%)	28 (2.8%)	15 (1.5%)
	女	795 (81.1%)	166 (16.9%)	17 (1.7%)	2 (0.2%)

図13 「性別」と「朝ご飯は食べてますか」のクロス集計グラフ



【結果5-2】

男女別に朝ご飯を食べているかの回答をみると、「まいにち食べている」が男子81.1%、女子81.1%「食べないときもある」が男子14.6%、女子16.9%、「食べない」が男子2.8%、女子1.7%であった。

◎設問 5

『朝食を抜く子は、どの学年が多いか。また、男女差はあるのか。』

のまとめ

- ・「小学生よりも中学生の方が、朝食を食べない子の割合が高い。」
- ・「朝食を食べるかどうかは、男女ではほとんど差はない。」
朝食を食べないことの男女による差は、ほとんどみられない。

◆設問6

家族の人数が少ないこと（核家族化やひとり親）により、孤独感を感じる子が増えるのか。

【検証6-1】

「Q1 家族の人数」と「Q5-2 ひとりぼっちだと思う」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

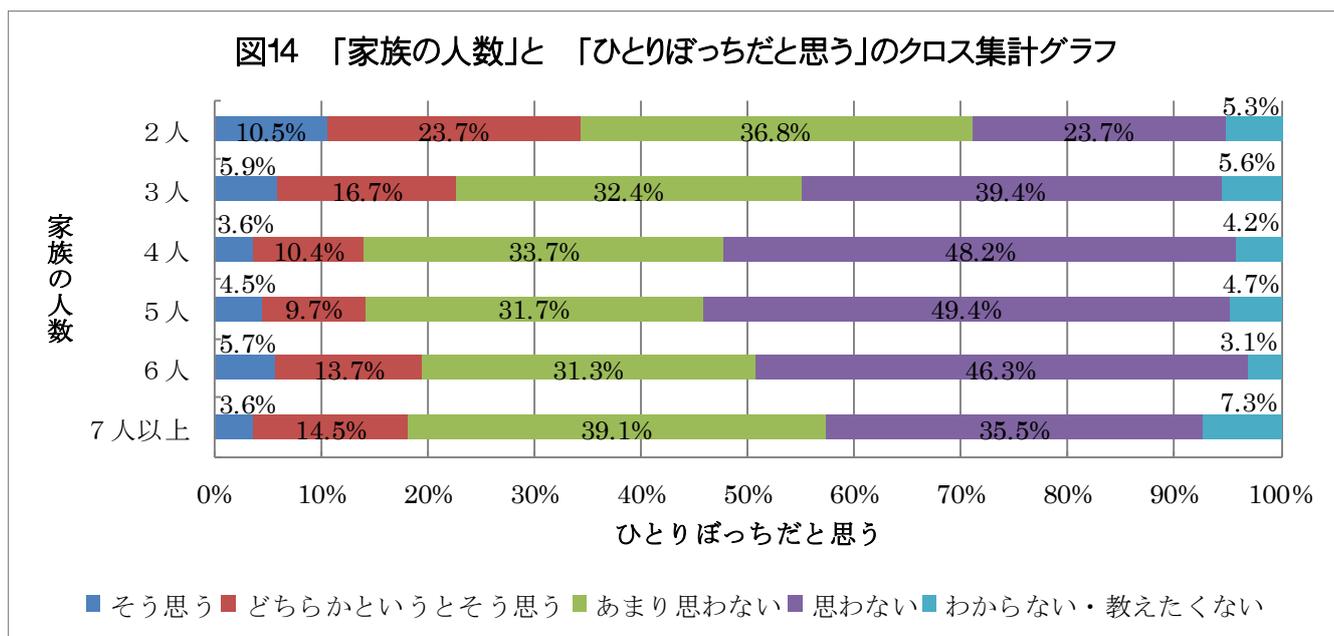
表18「家族の人数」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計表

Q5-2 ひとりぼっちだと思う

【単位:人(%)】

Q1 家族の人数	そう思う	どちらかというと思う	あまりそう思わない	思わない	わからない・教えたくない
2人	4(10.5%)	9(23.7%)	14(36.8%)	9(23.7%)	2(5.3%)
3人	17(5.9%)	48(16.7%)	93(32.4%)	113(39.4%)	16(5.6%)
4人	29(3.6%)	85(10.4%)	274(33.7%)	392(48.2%)	34(4.2%)
5人	22(4.5%)	47(9.7%)	154(31.7%)	240(49.4%)	23(4.7%)
6人	13(5.7%)	31(13.7%)	71(31.3%)	105(46.3%)	7(3.1%)
7人以上	4(3.6%)	16(14.5%)	43(39.1%)	39(35.5%)	8(7.3%)

図14 「家族の人数」と「ひとりぼっちだと思う」のクロス集計グラフ



【結果 6－1】

家族の人数別に、「ひとりぼっちだと思う」と回答した子の割合をみると、家族が3人5.9%、4人3.6%、5人4.5%、6人5.7%、7人以上3.6%であるが、2人では10.5%であった。

また、家族の人数別に「ひとりぼっちだと思わない」と回答した子の割合をみると、家族が3人以上では30%～50%の範囲であるのに対し、家族が2人の世帯では、23.7%であった。

◎設問 6

『家族の人数が少ないこと（核家族化やひとり親）により、孤独感を感じる子が増えるのか。』のまとめ

・「2人家族では、ひとりぼっちと思う子が多い。」

家族の人数別に、ひとりぼっちであると感じるかどうかを見ると、人数による違いが明らかなのは、2人家族であった。

保護者編

◆設問 1

「家族全体の収入の合計額」と「子どもの学習環境」には、どのような相関関係が見られるのか。

【検証 1-1】

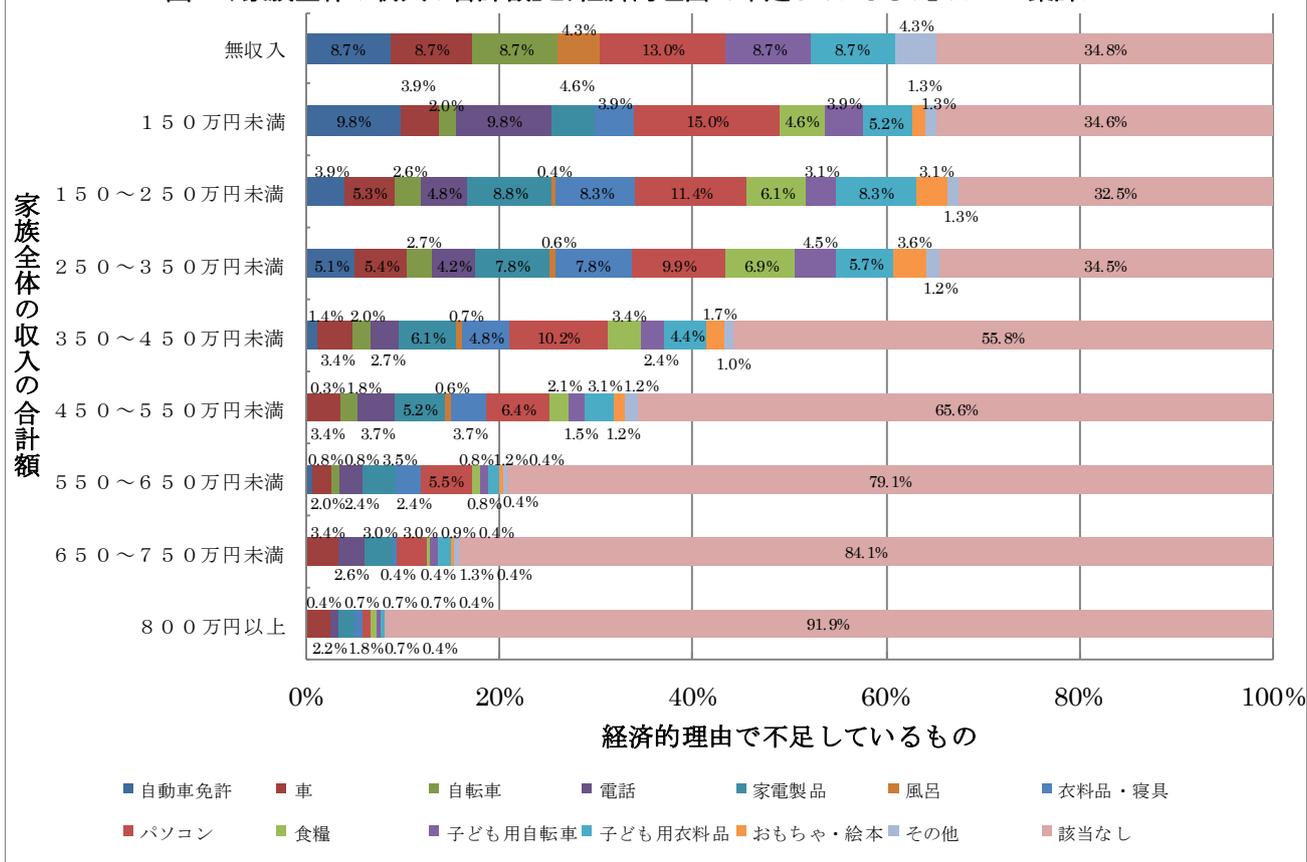
問5「家族全体の収入の合計額」と問10「経済的理由で不足しているもの」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表1 「家族全体の収入の合計額」と「経済的理由で不足しているもの」のクロス集計表

		問10 経済的理由で不足しているもの						【単位:人(%)】
問5 家族全体の収入の合計額		自動車免許	車	自転車	電話	家電製品	風呂	衣料品・寝具
	無収入	2(8.7%)	2(8.7%)	2(8.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(4.3%)	0(0.0%)
	150万円未満	15(9.8%)	6(3.9%)	3(2.0%)	15(9.8%)	7(4.6%)	0(0.0%)	6(3.9%)
	150～250万円未満	9(3.9%)	12(5.3%)	6(2.6%)	11(4.8%)	20(8.8%)	1(0.4%)	19(8.3%)
	250～350万円未満	17(5.1%)	18(5.4%)	9(2.7%)	14(4.2%)	26(7.8%)	2(0.6%)	26(7.8%)
	350～450万円未満	4(1.4%)	10(3.4%)	6(2.0%)	8(2.7%)	18(6.1%)	2(0.7%)	14(4.8%)
	450～550万円未満	1(0.3%)	11(3.4%)	6(1.8%)	12(3.7%)	17(5.2%)	2(0.6%)	12(3.7%)
	550～650万円未満	2(0.8%)	5(2.0%)	2(0.8%)	6(2.4%)	9(3.5%)	0(0.0%)	6(2.4%)
	650～750万円未満	0(0.0%)	8(3.4%)	0(0.0%)	6(2.6%)	7(3.0%)	0(0.0%)	1(0.4%)
	800万円以上	1(0.4%)	6(2.2%)	0(0.0%)	2(0.7%)	5(1.8%)	0(0.0%)	2(0.7%)

		問10 経済的理由で不足しているもの						【単位:人(%)】
問5 家族全体の収入の合計額		パソコン	食糧	子ども用自転車	子ども用衣料品	おもちゃ・絵本	その他	該当なし
	無収入	3(13.0%)	0(0.0%)	2(8.7%)	2(8.7%)	0(0.0%)	1(4.3%)	8(34.8%)
	150万円未満	23(15.0%)	7(4.6%)	6(3.9%)	8(5.2%)	2(1.3%)	2(1.3%)	53(34.6%)
	150～250万円未満	26(11.4%)	14(6.1%)	7(3.1%)	19(8.3%)	7(3.1%)	3(1.3%)	74(32.5%)
	250～350万円未満	33(9.9%)	23(6.9%)	15(4.5%)	19(5.7%)	12(3.6%)	4(1.2%)	115(34.5%)
	350～450万円未満	30(10.2%)	10(3.4%)	7(2.4%)	13(4.4%)	5(1.7%)	3(1.0%)	164(55.8%)
	450～550万円未満	21(6.4%)	7(2.1%)	5(1.5%)	10(3.1%)	4(1.2%)	4(1.2%)	214(65.6%)
	550～650万円未満	14(5.5%)	2(0.8%)	2(0.8%)	3(1.2%)	1(0.4%)	1(0.4%)	201(79.1%)
	650～750万円未満	7(3.0%)	1(0.4%)	2(0.9%)	3(1.3%)	1(0.4%)	1(0.4%)	196(84.1%)
	800万円以上	2(0.7%)	2(0.7%)	1(0.4%)	1(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	250(91.9%)

図1 「家族全体の収入の合計額」と「経済的理由で不足しているもの」のクロス集計グラフ



【結果 1-1】

「家族全体の収入の合計額」と「経済的理由で不足しているもの」の関係をみると、無収入から350万円未満の世帯では、「不足しているものがある」と回答した人が60%以上に達しているのに対し、350万円～450万円未満の世帯44.2%、450万円～550万円未満の世帯34.4%、550万円～650万円未満の世帯20.9%、650万円～750万円未満の世帯15.9%、800万円以上の世帯8.1%と、世帯収入が増えれば、不足するものは減る傾向にあった。

ただし、無収入や収入の低い世帯であっても「経済的理由で不足しているもの」に「該当なし」と回答した割合も高い。

また、子ども関連の費用（子ども用自転車、子ども用衣料品、おもちゃ・絵本）が不足していると回答した割合を家族全体の収入の合計額別にみると、無収入の世帯17.4%、150万円未満の世帯10.4%、150～250万円未満の世帯14.5%、250万円～350万円未満の世帯13.8%、350万円～450万円未満の世帯8.5%、450万円～550万円未満の世帯5.8%、550万円～650万円未満の世帯2.4%、650万円～750万円未満の世帯2.6%、800万円以上の世帯0.8%であり、世帯収入が減るほど、子ども関連の費用が不足する傾向にある。

【検証 1 - 2】

問5「家族全体の収入の合計額」と問10「経済的理由で制限していること」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表2 「家族全体の収入の合計額」と「経済的理由で制限していること」のクロス集計表

問10 経済的理由で制限していること

【単位:人(%)】

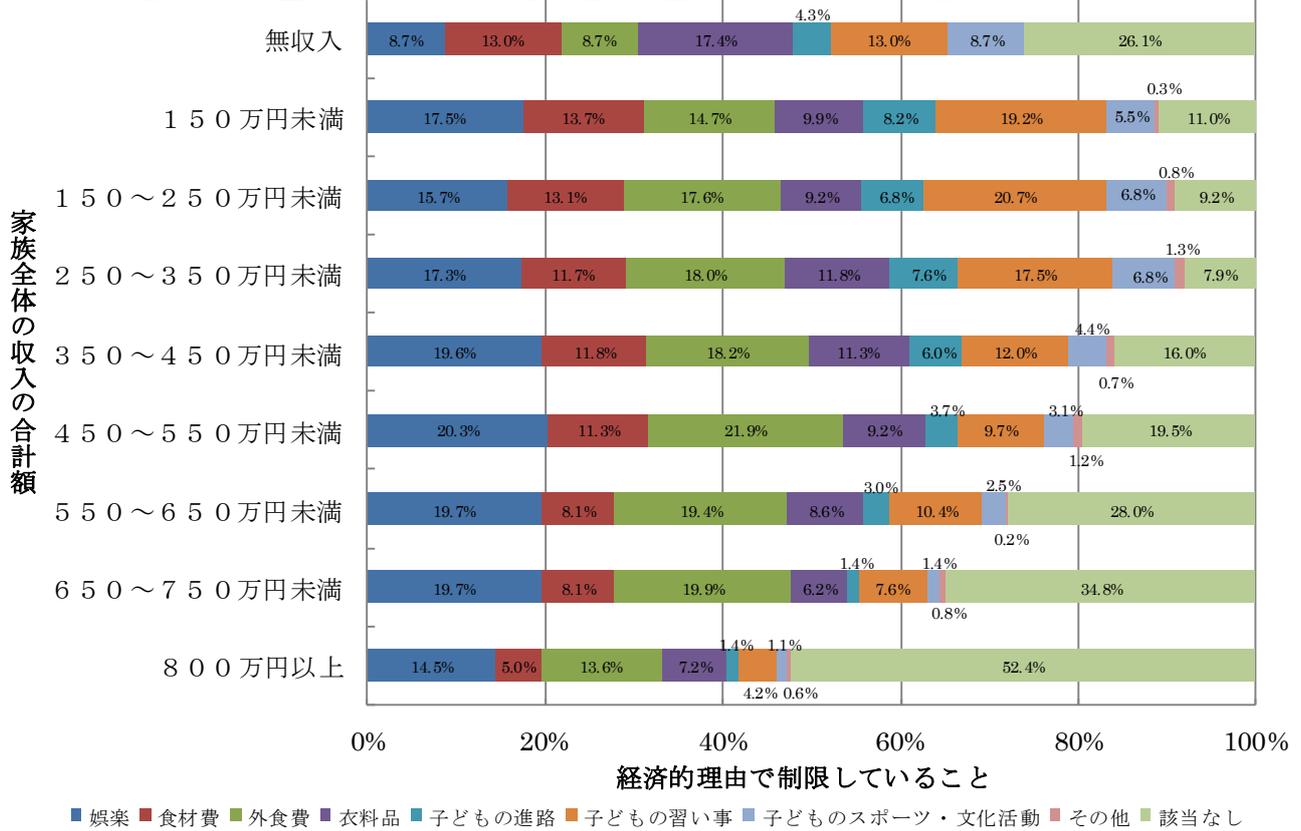
問5		娯楽	食材費	外食費	衣料品	子どもの進路	子どもの習い事
家族全体の収入の合計額	無収入	2(8.7%)	3(13.0%)	2(8.7%)	4(17.4%)	1(4.3%)	3(13.0%)
	150万円未満	51(17.5%)	40(13.7%)	43(14.7%)	29(9.9%)	24(8.2%)	56(19.2%)
	150～250万円未満	60(15.7%)	50(13.1%)	67(17.6%)	35(9.2%)	26(6.8%)	79(20.7%)
	250～350万円未満	107(17.3%)	72(11.7%)	111(18.0%)	73(11.8%)	47(7.6%)	108(17.5%)
	350～450万円未満	108(19.6%)	65(11.8%)	100(18.2%)	62(11.3%)	33(6.0%)	66(12.0%)
	450～550万円未満	117(20.3%)	65(11.3%)	126(21.9%)	53(9.2%)	21(3.7%)	56(9.7%)
	550～650万円未満	85(19.7%)	35(8.1%)	84(19.4%)	37(8.6%)	13(3.0%)	45(10.4%)
	650～750万円未満	70(19.7%)	29(8.1%)	71(19.9%)	22(6.2%)	5(1.4%)	27(7.6%)
	800万円以上	52(14.5%)	18(5.0%)	49(13.6%)	26(7.2%)	5(1.4%)	15(4.2%)

問10 経済的理由で制限していること

【単位:人(%)】

問5		子どものスポーツ・文化活動	その他	該当なし
家族全体の収入の合計額	無収入	2(8.7%)	0(0.0%)	6(26.1%)
	150万円未満	16(5.5%)	1(0.3%)	32(11.0%)
	150～250万円未満	26(6.8%)	3(0.8%)	35(9.2%)
	250～350万円未満	42(6.8%)	8(1.3%)	49(7.9%)
	350～450万円未満	24(4.4%)	4(0.7%)	88(16.0%)
	450～550万円未満	18(3.1%)	7(1.2%)	112(19.5%)
	550～650万円未満	11(2.5%)	1(0.2%)	121(28.0%)
	650～750万円未満	5(1.4%)	3(0.8%)	124(34.8%)
	800万円以上	4(1.1%)	2(0.6%)	188(52.4%)

図2 「家族全体の収入の合計額」と「経済的理由で制限していること」のクロス集計グラフ



【結果 1-2】

「家族全体の収入の合計額」と「経済的理由で制限していること」があるかの関係でみると、無収入から650万円未満の世帯では、「経済的理由で制限していることがある」と回答した人が70%以上に達しているのに対し、650万円～750万円未満の世帯65.2%、800万円以上の世帯47.6%と収入が増えるほど不足しているものが減っている。

また、制限する対象では、ほぼすべての収入世帯で、娯楽（10%台後半～20%程度）、外食費（10数%～20%前後）を同程度の割合の人が制限をしている。ただし、無収入の世帯では、娯楽と外食費を制限する割合が8.7%と低く、娯楽や外食をあまり制限していない。

「子どもの進路について」では、150万円未満の世帯8.2%、150万円～250万円未満の世帯6.8%、250万円～350万円未満の世帯7.6%、350万円～450万円未満の世帯6.0%、450万円～550万円未満の世帯3.7%、550万円～650万円未満の世帯3.0%、650万円～750万円未満の世帯1.4%、800万円以上の世帯1.4%と、世帯収入合計が低い世帯ほど制限している。

さらに、「子どもの習い事について」では、150万円未満の世帯19.2%、150万円～250万円未満の世帯20.7%、250万円～350万円未満の世帯17.5%、350万円～450万円未満の世帯12.0%、450万円～550万円未満の世帯9.7%、550万円～650万円未満の世帯10.4%、650万円～750万円未満の世帯7.6%、800万円以上の世帯4.2%と、世帯収入合計が低い世帯ほど制限している。

【検証 1 - 3】

問5「家族全体の収入の合計額」と問16A「1日の学習時間」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

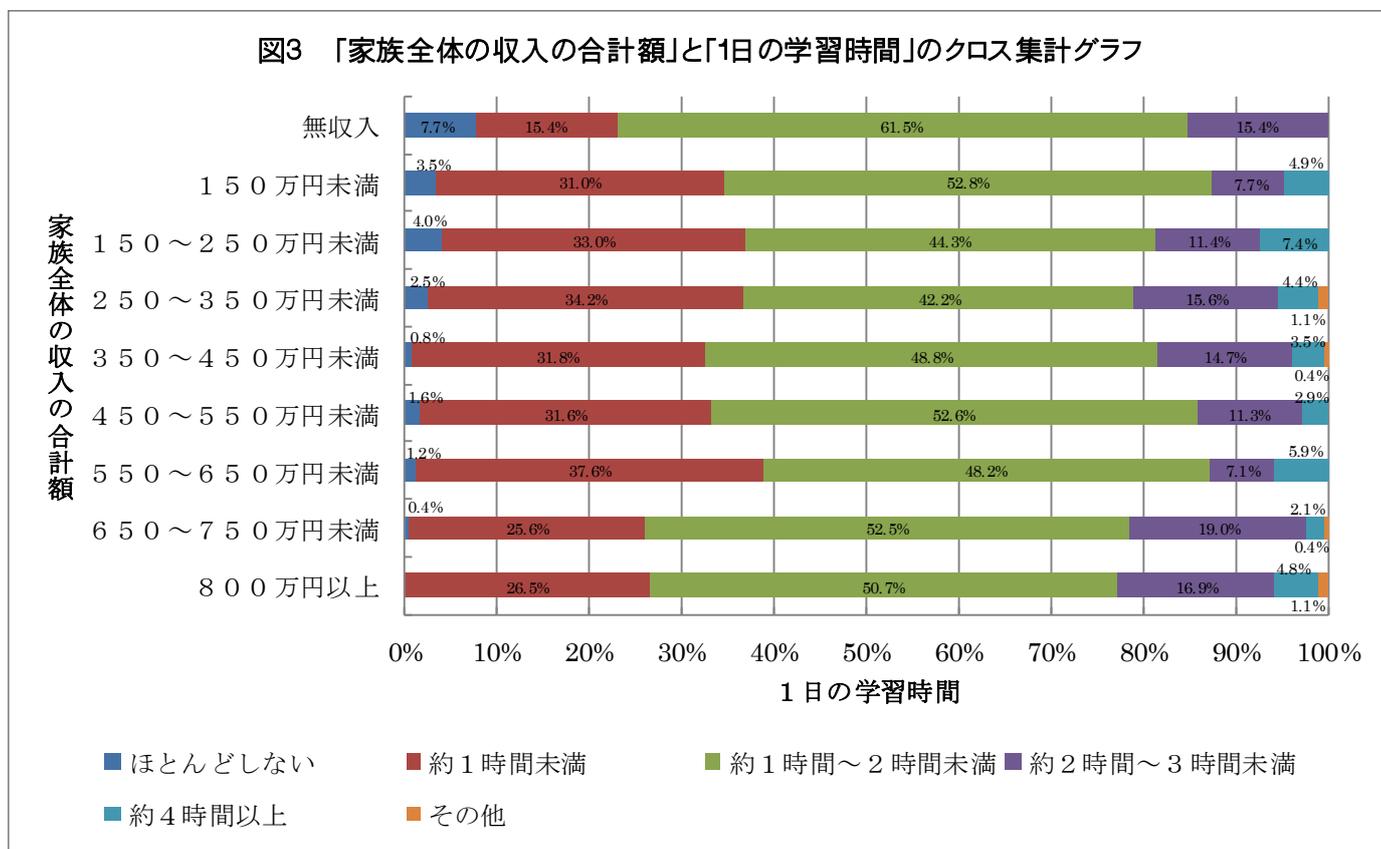
表3 「家族全体の収入の合計額」と「1日の学習時間」のクロス集計表

問16A 1日の学習時間

【単位:人(%)】

問5 家族全体の収入の合計額	問16A 1日の学習時間					
	ほとんどしない	約1時間未満	約1時間～2時間未満	約2時間～3時間未満	約4時間以上	その他
無収入	1(7.7%)	2(15.4%)	8(61.5%)	2(15.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
150万円未満	5(3.5%)	44(31.0%)	75(52.8%)	11(7.7%)	7(4.9%)	0(0.0%)
150～250万円未満	7(4.0%)	58(33.0%)	78(44.3%)	20(11.4%)	13(7.4%)	0(0.0%)
250～350万円未満	7(2.5%)	94(34.2%)	116(42.2%)	43(15.6%)	12(4.4%)	3(1.1%)
350～450万円未満	2(0.8%)	82(31.8%)	126(48.8%)	38(14.7%)	9(3.5%)	1(0.4%)
450～550万円未満	5(1.6%)	98(31.6%)	163(52.6%)	35(11.3%)	9(2.9%)	0(0.0%)
550～650万円未満	3(1.2%)	96(37.6%)	123(48.2%)	18(7.1%)	15(5.9%)	0(0.0%)
650～750万円未満	1(0.4%)	62(25.6%)	127(52.5%)	46(19.0%)	5(2.1%)	1(0.4%)
800万円以上	0(0.0%)	72(26.5%)	138(50.7%)	46(16.9%)	13(4.8%)	3(1.1%)

図3 「家族全体の収入の合計額」と「1日の学習時間」のクロス集計グラフ



【結果 1－3】

「お子さんの学習時間は、1日どの位ですか（一週間の平均時間）」という設問に対し、「ほとんどしない」と回答した者を家族全体の収入の合計額別にみると、無収入の世帯 7.7%、150万円未満の世帯 3.5%、150～250万円未満の世帯 4.0%、250万円～350万円未満の世帯 2.5%、350万円～450万円未満の世帯 0.8%、450万円～550万円未満の世帯 1.6%、550万円～650万円未満の世帯 1.2%、650万円～750万円未満の世帯 0.4%、800万円以上の世帯 0.0%であり、収入の少ない世帯の子どもほど、ほとんど学習しない子の割合が比較的高い。

ただし、どの収入の世帯でも、割合として一番多かったのは学習時間が約1～2時間未満という回答であった。また、無収入や150万円未満の収入の低い世帯でも、2時間以上勉強する子は10%～20%、800万円以上の世帯でも1時間未満の子が26.5%など、収入と家庭での学習時間の間には大きな違いは見られない。

【検証 1 - 4】

問5「家族全体の収入の合計額」と問16B「学習支援」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

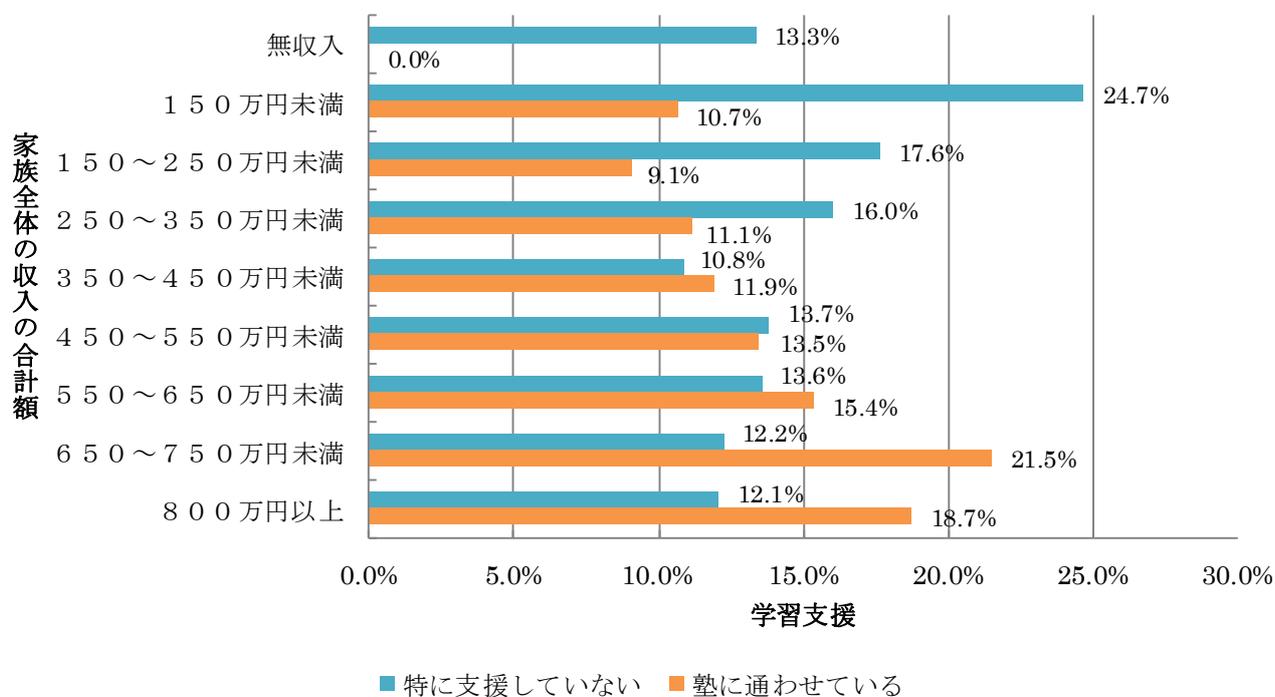
表4 「家族全体の収入の合計額」と「学習支援」のクロス集計表

問16B 学習支援

【単位:人(%)】

問5 家族全体の収入の合計額	問16B 学習支援						
	父親	母親	祖父母	兄弟姉妹	特に支援していない	塾に通わせている	その他
無収入	1(6.7%)	9(60.0%)	2(13.3%)	1(6.7%)	2(13.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
150万円未満	8(5.3%)	72(48.0%)	2(1.3%)	14(9.3%)	37(24.7%)	16(10.7%)	1(0.7%)
150～250万円未満	20(10.7%)	98(52.4%)	5(2.7%)	13(7.0%)	33(17.6%)	17(9.1%)	1(0.5%)
250～350万円未満	41(13.4%)	147(48.0%)	10(3.3%)	20(6.5%)	49(16.0%)	34(11.1%)	5(1.6%)
350～450万円未満	43(15.0%)	148(51.7%)	12(4.2%)	17(5.9%)	31(10.8%)	34(11.9%)	1(0.3%)
450～550万円未満	45(13.2%)	176(51.5%)	11(3.2%)	10(2.9%)	47(13.7%)	46(13.5%)	7(2.0%)
550～650万円未満	35(12.5%)	137(48.9%)	13(4.6%)	6(2.1%)	38(13.6%)	43(15.4%)	8(2.9%)
650～750万円未満	36(13.3%)	123(45.6%)	8(3.0%)	11(4.1%)	33(12.2%)	58(21.5%)	1(0.4%)
800万円以上	39(12.4%)	148(47.0%)	13(4.1%)	8(2.5%)	38(12.1%)	59(18.7%)	10(3.2%)

図4 「家族全体の収入の合計額」と「学習支援」のクロス集計グラフ



【結果 1 - 4】

「特に支援をしていない」と回答した人の割合では、無収入の世帯 13.3%、150 万円未満の世帯 24.7%、150 万円～250 万円未満の世帯 17.6%、250 万円～350 万円未満の世帯 16.0%、350 万円～450 万円未満の世帯 10.8%、450 万円～550 万円未満の世帯 13.7%、550 万円～650 万円未満の世帯 13.6%、650 万円～750 万円未満の世帯 12.2%、800 万円以上の世帯 12.1%となっており、150 万円未満の世帯が高い割合となった。

また、「塾に通わせている」割合は、無収入の世帯 0%、150 万円未満の世帯 10.7%、150 万円～250 万円未満の世帯は 9.1%と、収入の低い世帯では 10%程度なのに対し、650 万円～750 万円未満の世帯 21.5%、800 万円以上の世帯 18.7%など、収入の高い世帯では 20%程度となっており、収入によって塾に通わせている割合について差がある。

◎設問 1

『「家族全体の収入の合計額」と「子どもの学習環境」には、どのような相関関係が見られるのか。』のまとめ

・「無収入、収入の低い世帯であっても、物品は行き渡っている。」

無収入や収入の低い世帯であっても、不足しているものに「該当なし」と回答する人が約35%いた。

・「娯楽や外食費は、どの収入世帯でも制限している。」

経済的理由で制限していることをみると、収入が低い世帯ほど、制限しなければならないことが多い傾向は、結果1-1「不足しているもの」の傾向と同様である。しかし、娯楽や外食費を制限している割合は、どの収入段階の世帯でもあまり変化がない。

・「収入が低い世帯では、子ども関連の費用を制限している。」

「子どもの習い事」「子どもの進路」等については、収入の低い世帯ほど制限をしている。

・「家でほとんど学習しない子の割合は世帯収入に比例する。」

結果1-3より、家でほとんど学習をしない子の割合は、世帯の収入状況とほぼ比例している。家庭でほとんど学習しない子の割合が、無収入や収入の低い世帯で高い。

・「収入の高い世帯では塾に通っている割合が高い。」

無収入の世帯では、塾に通っている子がいらない。また、収入の低い世帯では塾に通っている子が少ない。

◆設問 2

家族全体の収入が低い世帯はどのような世帯か。また、家族構成による子ども関連の支出に何か特徴はあるか。

【検証 2 - 1】

問 5「家族全体の収入の合計額」と問 4「結婚していますか」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

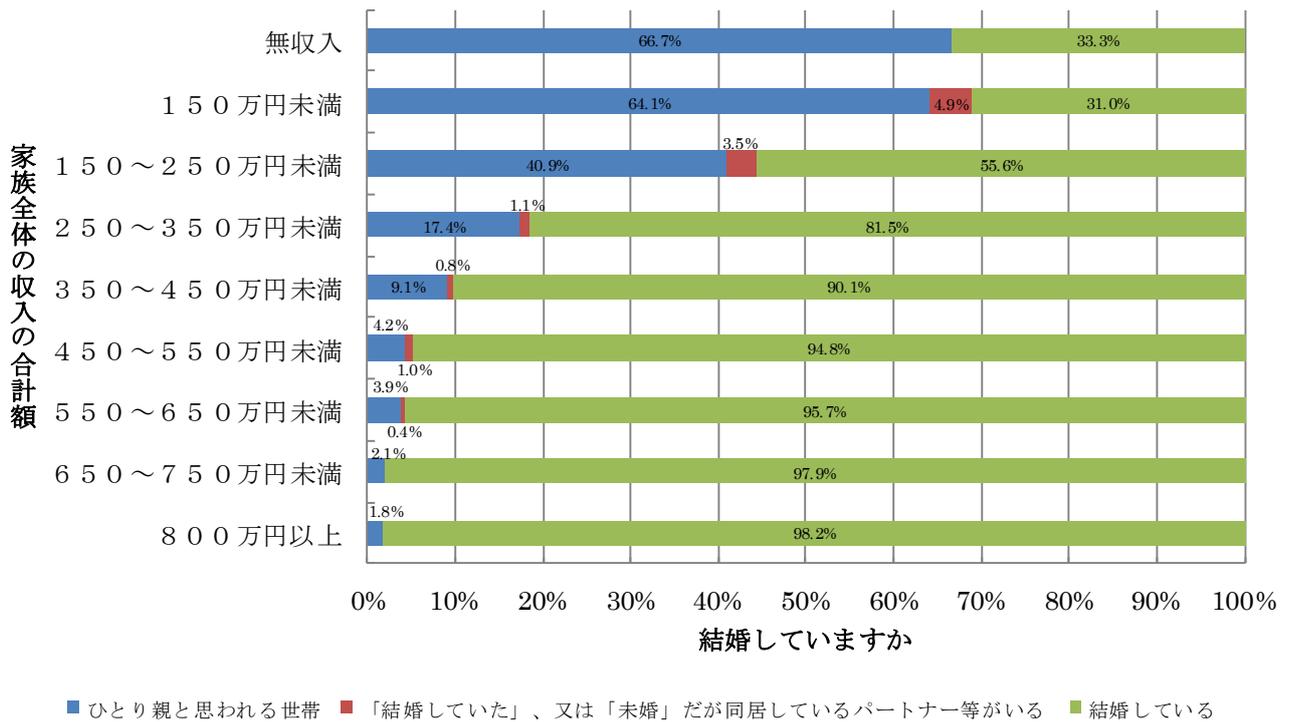
表5 「家族全体の収入の合計額」と「結婚していますか」のクロス集計表

問4 結婚していますか

【単位:人(%)】

問5 家族全体の収入の合計額	問4 結婚していますか					「結婚していた」、又は「未婚」だが同居しているパートナー等がいる
	結婚している	結婚していた(離婚)	結婚していた(死別)	結婚していた(その他)	未婚	
無収入	7(33.3%)	9(42.9%)	2(9.5%)	1(4.8%)	2(9.5%)	0(0.0%)
150万円未満	44(31.0%)	78(54.9%)	6(4.2%)	2(1.4%)	5(3.5%)	7(4.9%)
150～250万円未満	95(55.6%)	57(33.3%)	2(1.2%)	3(1.8%)	8(4.7%)	6(3.5%)
250～350万円未満	220(81.5%)	40(14.8%)	2(0.7%)	4(1.5%)	1(0.4%)	3(1.1%)
350～450万円未満	228(90.1%)	21(8.3%)	0(0.0%)	1(0.4%)	1(0.4%)	2(0.8%)
450～550万円未満	292(94.8%)	11(3.6%)	1(0.3%)	1(0.3%)	0(0.0%)	3(1.0%)
550～650万円未満	243(95.7%)	10(3.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.4%)
650～750万円未満	233(97.9%)	5(2.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
800万円以上	267(98.2%)	4(1.5%)	1(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

図5 「家族全体の収入の合計額」と「結婚していますか」のクロス集計グラフ



【結果 2-1】

家族全体の収入の合計額別にひとり親と思われる世帯の割合をみると、無収入の世帯 66.7%、150 万円未満の世帯 64.1%、150 万円～250 万円未満の世帯 40.9%、250 万円～350 万円未満の世帯 17.4%、350 万円～450 万円未満の世帯 9.1%、450 万円～550 万円未満の世帯 4.2%、550 万円～650 万円未満の世帯 3.9%、650 万円～750 万円未満の世帯 2.1%、800 万円以上の世帯 1.8%であり、ひとり親と思われる世帯は収入が低くなる。

また、結婚している親の割合をみると、無収入の世帯 33.3%、150 万円未満の世帯 31.0%、150 万円～250 万円未満の世帯 55.6%、250 万円～350 万円未満の世帯 81.5%、350 万円～450 万円未満の世帯 90.1%、450 万円～550 万円未満の世帯 94.8%、550 万円～650 万円未満の世帯 95.7%、650 万円～750 万円未満の世帯 97.9%、800 万円以上の世帯 98.2%であり、結婚している世帯ほど、収入が高くなる。

【検証 2 - 2】

問 3 「家族構成」と問 10 「経済的理由で不足しているもの」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表6 「家族構成」と「経済的理由で不足しているもの」のクロス集計表

問10 経済的理由で不足しているもの

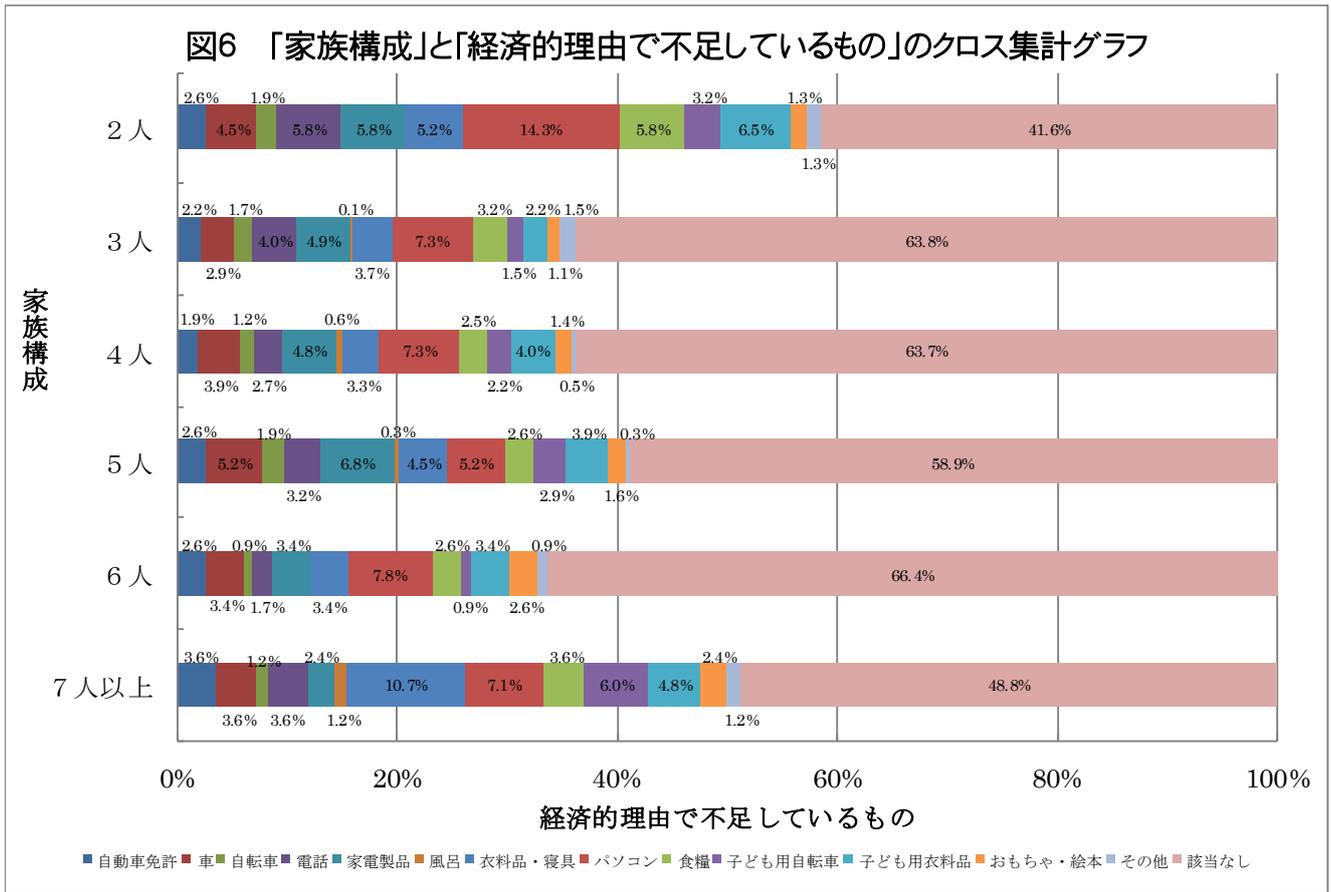
【単位:人(%)】

問3		自動車免許	車	自転車	電話	家電製品	風呂	衣料品・寝具
家族構成	2人	4(2.6%)	7(4.5%)	3(1.9%)	9(5.8%)	9(5.8%)	0(0.0%)	8(5.2%)
	3人	17(2.2%)	22(2.9%)	13(1.7%)	30(4.0%)	37(4.9%)	1(0.1%)	28(3.7%)
	4人	16(1.9%)	32(3.9%)	10(1.2%)	22(2.7%)	40(4.8%)	5(0.6%)	27(3.3%)
	5人	8(2.6%)	16(5.2%)	6(1.9%)	10(3.2%)	21(6.8%)	1(0.3%)	14(4.5%)
	6人	3(2.6%)	4(3.4%)	1(0.9%)	2(1.7%)	4(3.4%)	0(0.0%)	4(3.4%)
	7人以上	3(3.6%)	3(3.6%)	1(1.2%)	3(3.6%)	2(2.4%)	1(1.2%)	9(10.7%)

問10 経済的理由で不足しているもの

【単位:人(%)】

問3		パソコン	食糧	子ども用自転車	子ども用衣料品	おもちゃ・絵本	その他	該当なし
家族構成	2人	22(14.3%)	9(5.8%)	5(3.2%)	10(6.5%)	2(1.3%)	2(1.3%)	64(41.6%)
	3人	55(7.3%)	24(3.2%)	11(1.5%)	17(2.2%)	8(1.1%)	11(1.5%)	482(63.8%)
	4人	61(7.3%)	21(2.5%)	18(2.2%)	33(4.0%)	12(1.4%)	4(0.5%)	529(63.7%)
	5人	16(5.2%)	8(2.6%)	9(2.9%)	12(3.9%)	5(1.6%)	1(0.3%)	182(58.9%)
	6人	9(7.8%)	3(2.6%)	1(0.9%)	4(3.4%)	3(2.6%)	1(0.9%)	77(66.4%)
	7人以上	6(7.1%)	3(3.6%)	5(6.0%)	4(4.8%)	2(2.4%)	1(1.2%)	41(48.8%)



【結果 2-2】

「家族構成」と、「経済的理由で不足しているもの」との関係について、不足しているものがないと回答した世帯の割合をみると、3人～6人の世帯では約60%台の回答であったが、2人及び7人以上の世帯では「該当なし」が40%台である。

次に2人の世帯、7人以上の世帯について、不足しているものと回答した割合が高い順でみていくと、2人の世帯ではパソコン（14.3%）、子ども用衣料品（6.5%）、食糧（5.8%）であり、7人以上の世帯では、衣料品・寝具（10.7%）、パソコン（7.1%）、子ども用自転車（6.0%）となっている。

【検証 2 - 3】

問 3「家族構成」と問 10「経済的理由で制限していること」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表7 「家族構成」と「経済的理由で制限していること」のクロス集計表

問10 経済的理由で制限していること

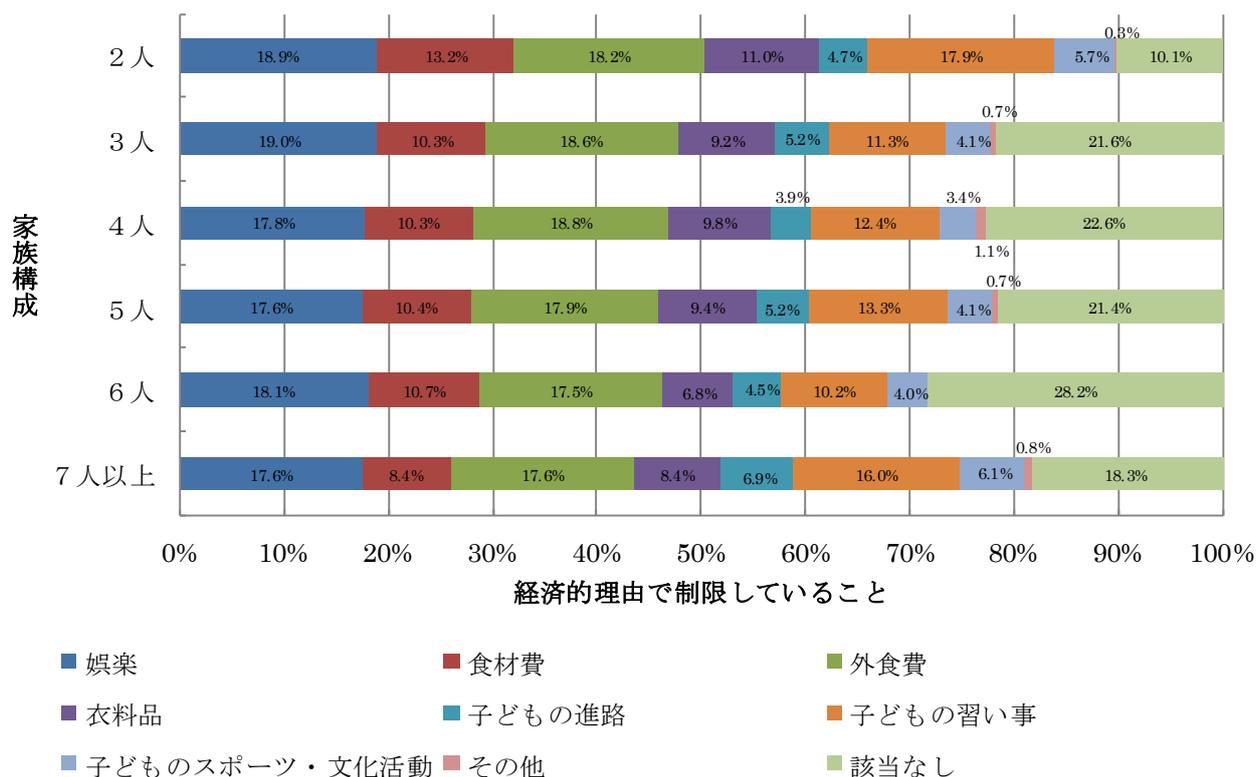
【単位:人(%)】

問3		娯楽	食材費	外食費	衣料品	子どもの進路	子どもの習い事
家族構成	2人	60(18.9%)	42(13.2%)	58(18.2%)	35(11.0%)	15(4.7%)	57(17.9%)
	3人	243(19.0%)	132(10.3%)	238(18.6%)	118(9.2%)	66(5.2%)	145(11.3%)
	4人	250(17.8%)	145(10.3%)	264(18.8%)	138(9.8%)	55(3.9%)	174(12.4%)
	5人	95(17.6%)	56(10.4%)	97(17.9%)	51(9.4%)	28(5.2%)	72(13.3%)
	6人	32(18.1%)	19(10.7%)	31(17.5%)	12(6.8%)	8(4.5%)	18(10.2%)
	7人以上	23(17.6%)	11(8.4%)	23(17.6%)	11(8.4%)	9(6.9%)	21(16.0%)

問10 経済的理由で制限していること 【単位:人(%)】

問3		子どものスポーツ・文化活動	その他	該当なし
家族構成	2人	18(5.7%)	1(0.3%)	32(10.1%)
	3人	53(4.1%)	9(0.7%)	277(21.6%)
	4人	48(3.4%)	15(1.1%)	318(22.6%)
	5人	22(4.1%)	4(0.7%)	116(21.4%)
	6人	7(4.0%)	0(0.0%)	50(28.2%)
	7人以上	8(6.1%)	1(0.8%)	24(18.3%)

図7 「家族構成」と「経済的理由で制限していること」のクロス集計グラフ



【結果 2 - 3】

娯楽や外食費を制限する割合は、世帯人数別にみてもほとんど違いが見られない。子ども関連の支出（子どもの進路、子どもの習い事、子どものスポーツ・文化活動）に着目すると、3～6人の世帯で子ども関連の支出を制限しているのは10%台後半～20%前後であるが、2人の世帯（28.3%）、7人以上の世帯（29.0%）では、支出を制限している割合が高いことがわかる。

また、2人の世帯では、他の人数の世帯に比べ食材費（13.2%）を制限している割合も高くなっている。

◎設問 2

『家族全体の収入が低い世帯はどのような世帯か。また、家族構成による子ども関連の支出に何か特徴はあるか。』のまとめ

・「ひとり親と思われる世帯は、家族全体の収入合計が低い。」

・「経済的理由から、子どもの関連費用を制限しているのは、2人の世帯及び7人以上の世帯である。特に2人の世帯では、食糧も制限している割合が高い。」

家族構成によって大きな違いはなかったが、子ども関連の費用を制限しているのは、2人の世帯と7人以上の世帯である。

◆設問 3

どのような世帯の保護者が、学習支援への参加希望が高いのか。

【検証 3-1】

問 4 「結婚していますか」と問 18 「学習支援の参加希望」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

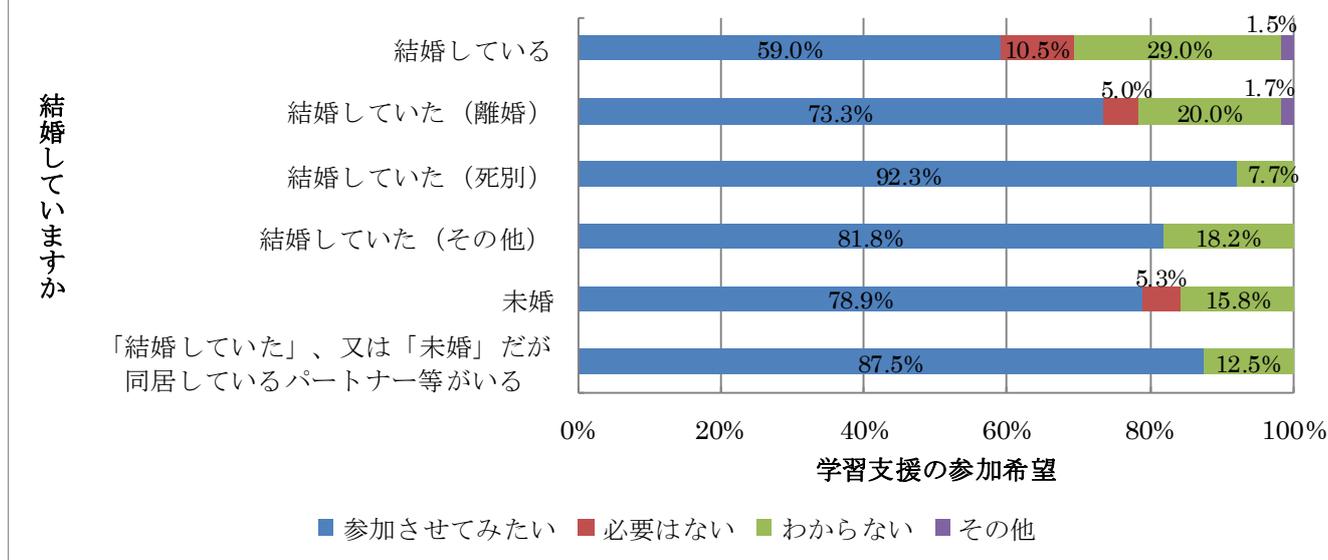
表8 「結婚していますか」と「学習支援の参加希望」のクロス集計表

問 18 学習支援の参加希望

【単位：人（％）】

問 4		参加させたい	必要はない	わからない	その他
結婚していますか	結婚している	1,045 (59.0%)	186 (10.5%)	513 (29.0%)	27 (1.5%)
	結婚していた（離婚）	176 (73.3%)	12 (5.0%)	48 (20.0%)	4 (1.7%)
	結婚していた（死別）	12 (92.3%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)
	結婚していた（その他）	9 (81.8%)	0 (0.0%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)
	未婚	15 (78.9%)	1 (5.3%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)
	「結婚していた」、又は「未婚」だが同居しているパートナー等がいる	21 (87.5%)	0 (0.0%)	3 (12.5%)	0 (0.0%)

図8 「結婚していますか」と「学習支援の参加希望」のクロス集計グラフ



【結果 3 - 1】

全体的に学習支援への参加を希望する世帯は多いが、結婚している世帯 (59.0%) に比べ、ひとり親と思われる世帯では 70~90% と参加希望の割合がさらに高い。また、同居しているパートナー等がいる世帯では、87.5% と参加希望の割合が高い。

【検証 3-2】

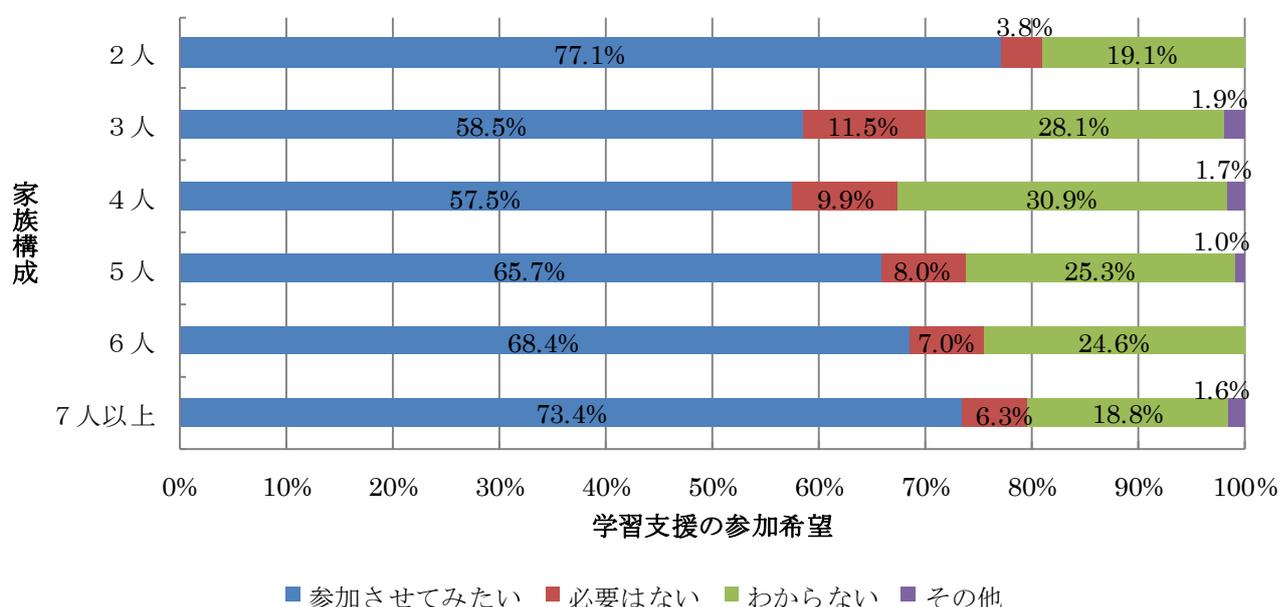
問 3 「家族構成」と問 1 8 「学習支援の参加希望」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表9 「家族構成」と「学習支援の参加希望」のクロス集計表

問 1 8 学習支援の参加希望 【単位：人（％）】

問 3 家族構成	参加させてみたい	必要はない	わからない	その他
2人	101 (77.1%)	5 (3.8%)	25 (19.1%)	0 (0.0%)
3人	428 (58.5%)	84 (11.5%)	206 (28.1%)	14 (1.9%)
4人	443 (57.5%)	76 (9.9%)	238 (30.9%)	13 (1.7%)
5人	190 (65.7%)	23 (8.0%)	73 (25.3%)	3 (1.0%)
6人	78 (68.4%)	8 (7.0%)	28 (24.6%)	0 (0.0%)
7人以上	47 (73.4%)	4 (6.3%)	12 (18.8%)	1 (1.6%)

図9 「家族構成」と「学習支援の参加希望」のクロス集計グラフ



【結果 3-2】

「学習支援の参加希望」を家族構成別にみると、2人の世帯(77.1%)、3人の世帯(58.5%)、4人の世帯(57.5%)、5人の世帯(65.7%)、6人の世帯(68.4%)、7人以上の世帯(73.4%)となった。2人の世帯と7人以上の世帯で参加希望の割合が高い。

【検証3-3】

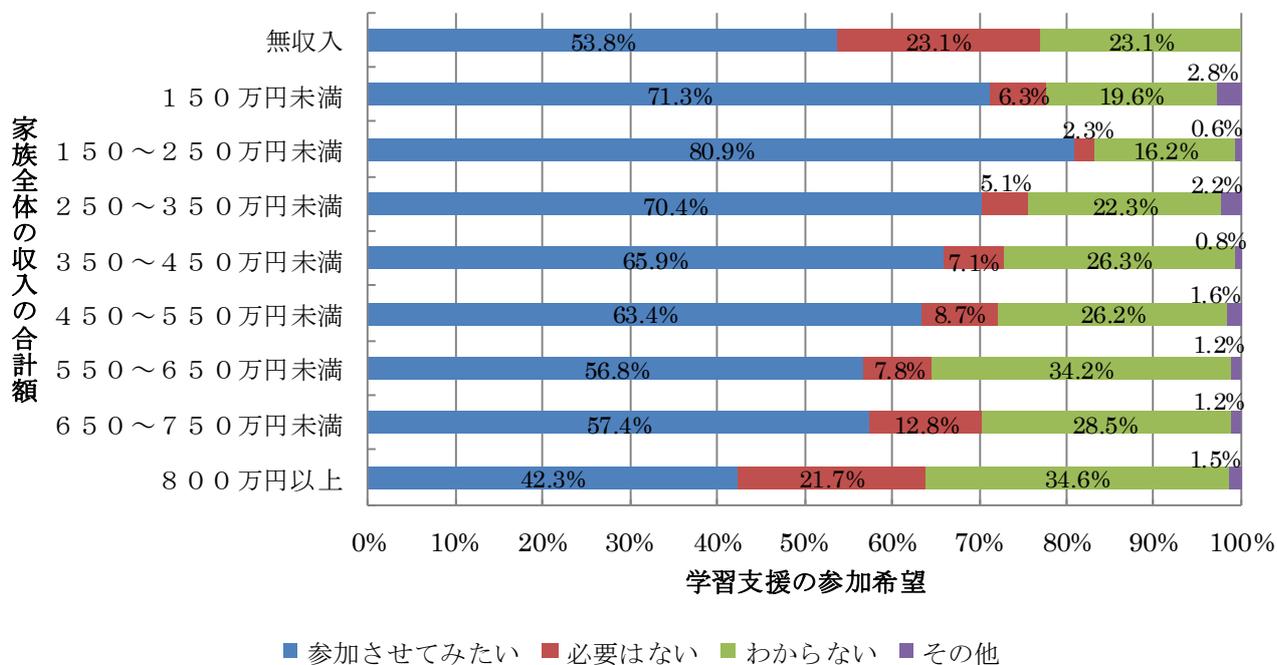
問5「家族全体の収入の合計額」と問18「学習支援の参加希望」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表10 「家族全体の収入の合計額」と「学習支援の参加希望」のクロス集計表

問18 学習支援の参加希望 【単位:人(%)】

問5	参加させてみたい	必要はない	わからない	その他
無収入	7(53.8%)	3(23.1%)	3(23.1%)	0(0.0%)
150万円未満	102(71.3%)	9(6.3%)	28(19.6%)	4(2.8%)
150～250万円未満	140(80.9%)	4(2.3%)	28(16.2%)	1(0.6%)
250～350万円未満	193(70.4%)	14(5.1%)	61(22.3%)	6(2.2%)
350～450万円未満	168(65.9%)	18(7.1%)	67(26.3%)	2(0.8%)
450～550万円未満	196(63.4%)	27(8.7%)	81(26.2%)	5(1.6%)
550～650万円未満	146(56.8%)	20(7.8%)	88(34.2%)	3(1.2%)
650～750万円未満	139(57.4%)	31(12.8%)	69(28.5%)	3(1.2%)
800万円以上	115(42.3%)	59(21.7%)	94(34.6%)	4(1.5%)

図10 「家族全体の収入の合計額」と「学習支援の参加希望」のクロス集計グラフ



【結果 3 - 3】

「家族全体の収入の合計額」と「学習支援の参加希望」の関係では、150 万円未満から 350 万円未満の世帯では、「参加させてみたい」と回答した人が 70%以上であるのに対し、350 万円～450 万円未満の世帯 65.9%、450 万円～550 万円未満の世帯 63.4%、550 万円～650 万円未満の世帯 56.8%、650 万円～750 万円未満の世帯 57.4%、800 万円以上の世帯 42.3% であり、世帯収入が増えると学習支援への参加希望は減る傾向にあった。

ただし、無収入の世帯では学習支援参加希望が 53.8%と低く、「学習支援の必要はない」と考える人は 23.1%と最も高かった。

【検証 3-4】

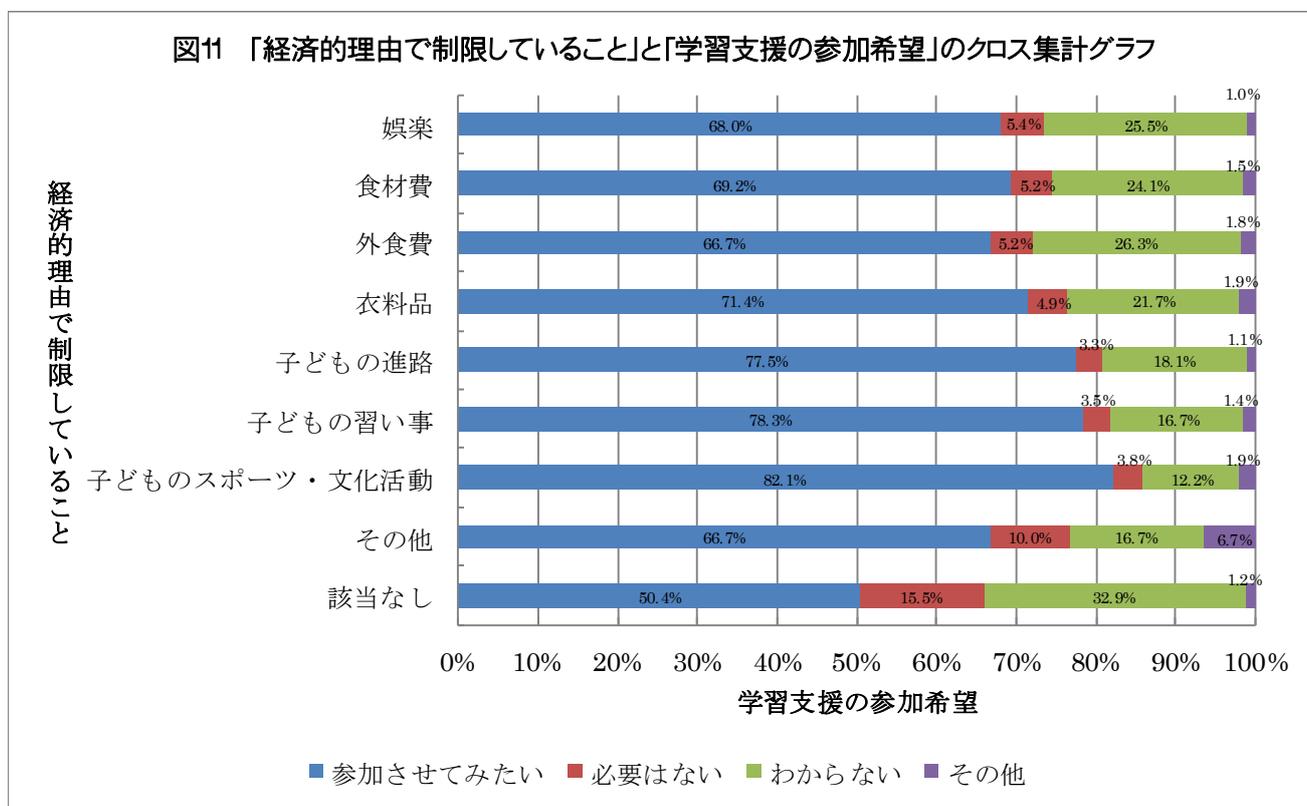
問10「経済的理由で制限していること」と問18「学習支援の参加希望」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表11 「経済的理由で制限していること」と「学習支援の参加希望」のクロス集計表

問18 学習支援の参加希望 【単位:人(%)】

問10	参加させてみたい	必要はない	わからない	その他
経済的理由で制限していること 娯楽	477(68.0%)	38(5.4%)	179(25.5%)	7(1.0%)
食材費	279(69.2%)	21(5.2%)	97(24.1%)	6(1.5%)
外食費	472(66.7%)	37(5.2%)	186(26.3%)	13(1.8%)
衣料品	260(71.4%)	18(4.9%)	79(21.7%)	7(1.9%)
子どもの進路	141(77.5%)	6(3.3%)	33(18.1%)	2(1.1%)
子どもの習い事	379(78.3%)	17(3.5%)	81(16.7%)	7(1.4%)
子どものスポーツ・文化活動	128(82.1%)	6(3.8%)	19(12.2%)	3(1.9%)
その他	20(66.7%)	3(10.0%)	5(16.7%)	2(6.7%)
該当なし	410(50.4%)	126(15.5%)	268(32.9%)	10(1.2%)

図11 「経済的理由で制限していること」と「学習支援の参加希望」のクロス集計グラフ



【結果 3-4】

学習支援に参加させてみたい人が、経済的理由で制限していることをみると、「子どものスポーツ・文化活動」82.1%、「子どもの習い事」78.3%、「子どもの進路」77.5%と、子どもに関することを経済的に制限している世帯では、学習活動への参加を希望する割合が高い。

また、経済的理由で制限していることがない世帯では、「参加させてみたい」との回答は50.4%であり、他に比べると低い割合である。

◎設問3

『学習支援が必要であり、学習支援への参加希望のある保護者はどのような世帯か。』のまとめ

- ・「収入が高い世帯では、学習支援への参加希望は低い。」
収入が高く、不足しているものがない世帯は、学習支援への参加希望は低い。
- ・「ひとり親の世帯では、学習支援への参加希望が高い。」
ひとり親の世帯では、学習支援への参加希望が高く、世帯での収入合計が低い世帯も参加希望が高い。
- ・「無収入の世帯では、学習支援が「必要ない」と回答した割合が最も高い。」
無収入の世帯では、学習支援の参加希望が低く、学習支援については「必要ない」との回答割合が最も高い。

◆設問 4

食事の提供を含む食生活改善が必要なのはどのような世帯か。

【検証 4 - 1】

問 5 「家族全体の収入の合計額」と問 1 2 「子どもの朝食」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

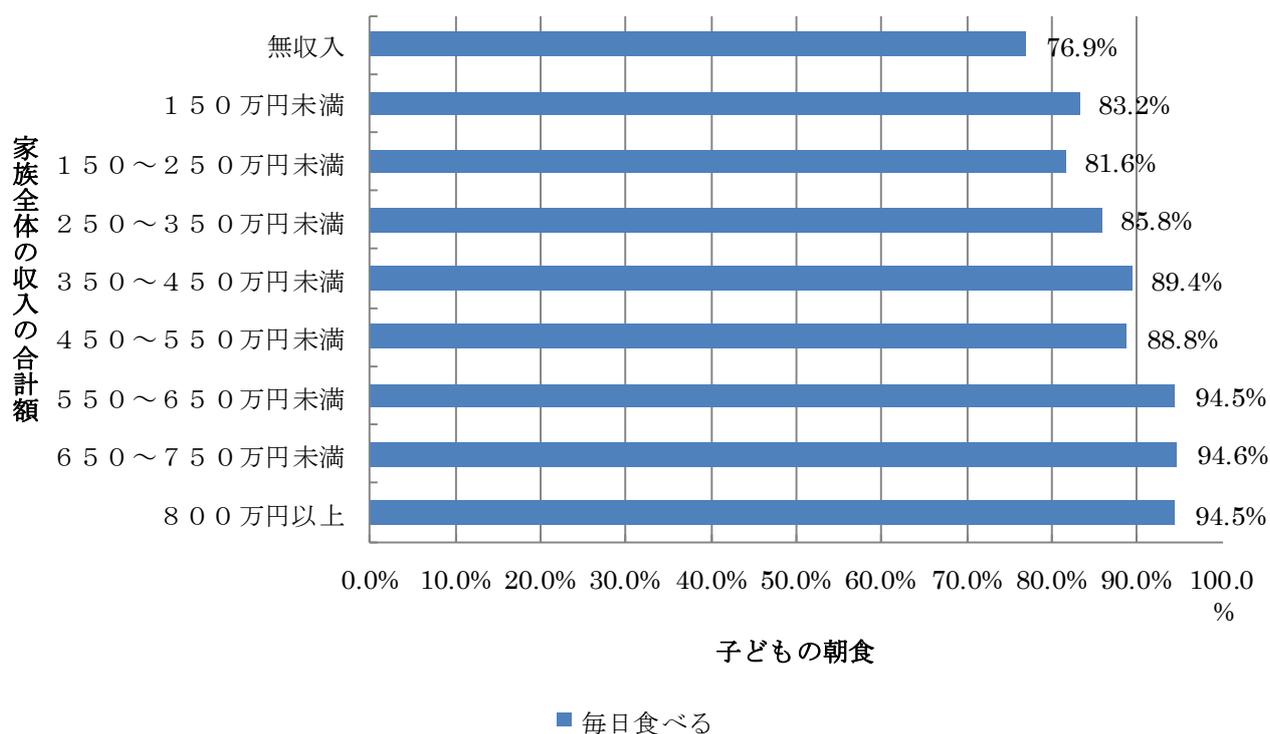
表 12 「家族全体の収入の合計額」と「子どもの朝食」のクロス集計表

問12 子どもの朝食

【単位:人(%)】

問5 家族全体の収入の合計額	問12 子どもの朝食				
	毎日食べる	ときどき食べない	ほとんど食べない	全く食べない	分からない
無収入	10(76.9%)	2(15.4%)	1(7.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
150万円未満	119(83.2%)	22(15.4%)	2(1.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
150～250万円未満	142(81.6%)	23(13.2%)	7(4.0%)	2(1.1%)	0(0.0%)
250～350万円未満	236(85.8%)	24(8.7%)	11(4.0%)	3(1.1%)	1(0.4%)
350～450万円未満	228(89.4%)	20(7.8%)	6(2.4%)	1(0.4%)	0(0.0%)
450～550万円未満	277(88.8%)	24(7.7%)	9(2.9%)	1(0.3%)	1(0.3%)
550～650万円未満	242(94.5%)	11(4.3%)	1(0.4%)	2(0.8%)	0(0.0%)
650～750万円未満	229(94.6%)	10(4.1%)	3(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
800万円以上	259(94.5%)	11(4.0%)	4(1.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)

図12 「家族全体の収入の合計額」と「子どもの朝食」のクロス集計グラフ



【結果4-1】

「家族全体の収入の合計額」と「子どもの朝食」についてみると、概ね収入の高い世帯ほど、朝食を毎日食べる割合が高く、無収入の世帯では「毎日食べる」と回答した世帯は76.9%と他に比べ低い。

【検証4-2】

問5「家族全体の収入の合計額」と問13「子どもの夕食」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

表13 子どもが「ふだんどのように夕食を食べているか」の回答表

	家族と一緒に食べる	子どもたちだけで食べる	一人で食べる	食べない	わからない	不明・無回答	合計
回答数	2,360	138	69	1	5	7	2,580
構成比	91.5%	5.3%	2.7%	0.0%	0.2%	0.3%	100.0%

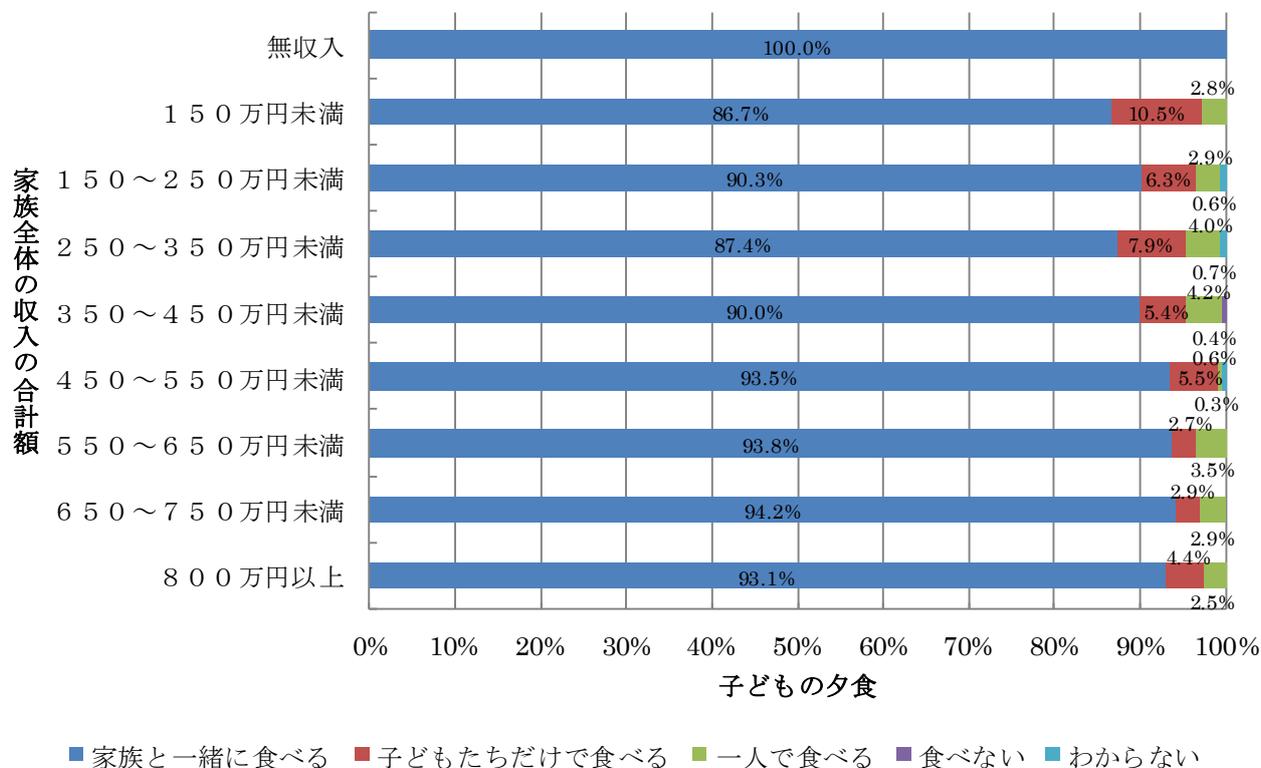
表14 「家族全体の収入の合計額」と「子どもの夕食」のクロス集計表

問13 子どもの夕食

【単位:人(%)】

問5 家族全体の収入の合計額	家族と一緒に食べる	子どもたちだけで食べる	一人で食べる	食べない	わからない
無収入	13(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
150万円未満	124(86.7%)	15(10.5%)	4(2.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)
150～250万円未満	158(90.3%)	11(6.3%)	5(2.9%)	0(0.0%)	1(0.6%)
250～350万円未満	242(87.4%)	22(7.9%)	11(4.0%)	0(0.0%)	2(0.7%)
350～450万円未満	233(90.0%)	14(5.4%)	11(4.2%)	1(0.4%)	0(0.0%)
450～550万円未満	290(93.5%)	17(5.5%)	2(0.6%)	0(0.0%)	1(0.3%)
550～650万円未満	240(93.8%)	7(2.7%)	9(3.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)
650～750万円未満	228(94.2%)	7(2.9%)	7(2.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)
800万円以上	256(93.1%)	12(4.4%)	7(2.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)

図13 「家族全体の収入の合計額」と「子どもの夕食」のクロス集計グラフ



【結果4-2】

表13から、ふだんの夕食は「家族と一緒に食べる」との回答が、91.7%と最も多い。しかし、「子どもたちだけで食べる」、「一人で食べる」との回答も8.0%（207人）いる。

「家族全体の収入の合計額」と「子どもの夕食」との関係では、「家族と一緒に食べる」がどの収入の家族でも最も多く、ほとんどが90%を超えている。ただし、150万円未満の世帯や250万円～450万円未満の世帯では、「子どもたちだけで食べる」や「一人で食べる」との回答も10%程度みられた。

無収入の世帯では、「家族と一緒に食べる」は100%（13世帯）となっている。

【検証4-3】

問5「家族全体の収入の合計額」と問14「食事の内容」の回答者について、クロス集計により分析を行った。

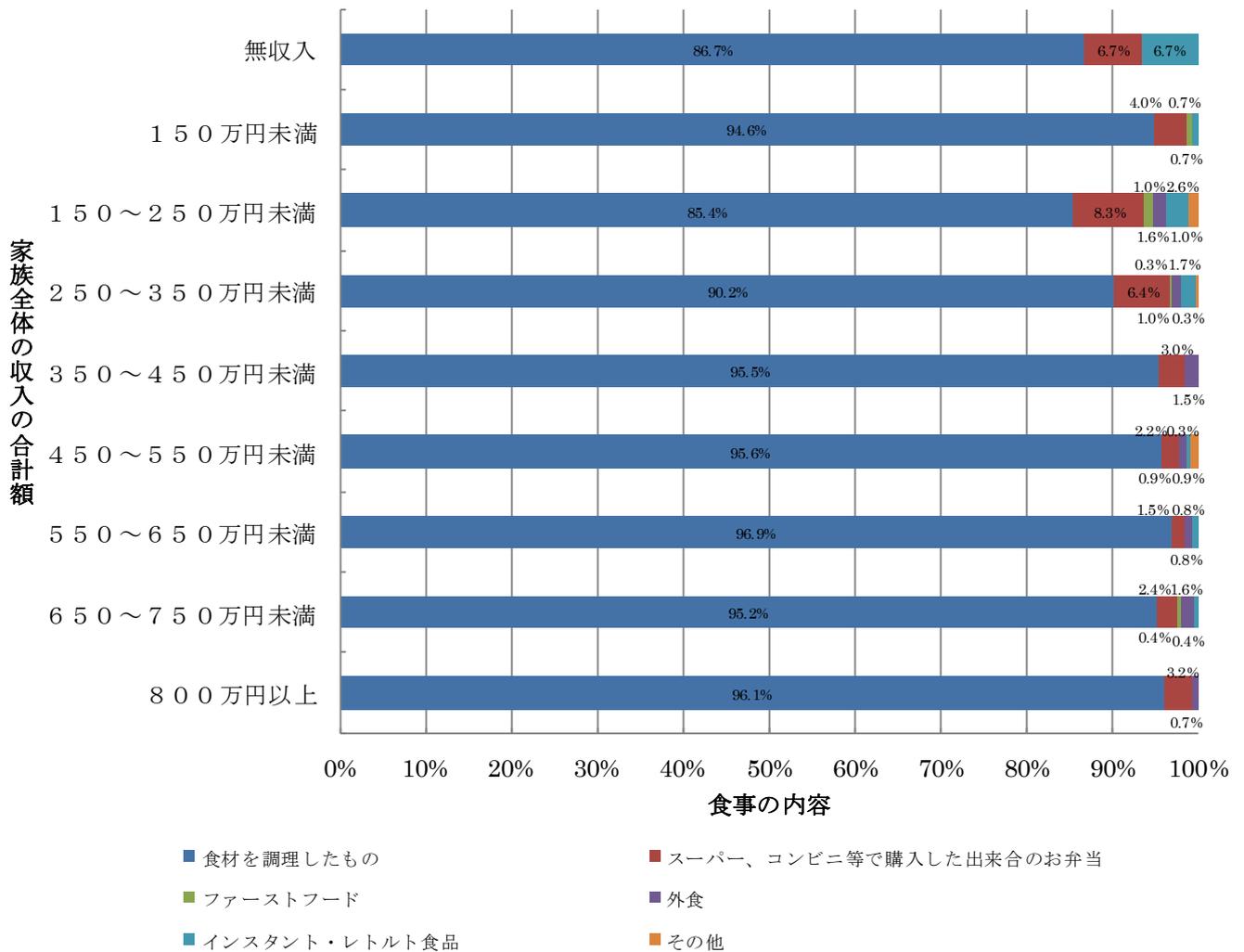
表15 「家族全体の収入の合計額」と「食事の内容」のクロス集計表

問14 食事の内容

【単位:人(%)】

問5 家族全体の収入の合計額	問14 食事の内容					
	食材を調理したもの	スーパー、コンビニ等で購入した出来合のお弁当	ファーストフード	外食	インスタント・レトルト食品	その他
無収入	13(86.7%)	1(6.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(6.7%)	0(0.0%)
150万円未満	141(94.6%)	6(4.0%)	1(0.7%)	0(0.0%)	1(0.7%)	0(0.0%)
150～250万円未満	164(85.4%)	16(8.3%)	2(1.0%)	3(1.6%)	5(2.6%)	2(1.0%)
250～350万円未満	267(90.2%)	19(6.4%)	1(0.3%)	3(1.0%)	5(1.7%)	1(0.3%)
350～450万円未満	252(95.5%)	8(3.0%)	0(0.0%)	4(1.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)
450～550万円未満	305(95.6%)	7(2.2%)	0(0.0%)	3(0.9%)	1(0.3%)	3(0.9%)
550～650万円未満	252(96.9%)	4(1.5%)	0(0.0%)	2(0.8%)	2(0.8%)	0(0.0%)
650～750万円未満	240(95.2%)	6(2.4%)	1(0.4%)	4(1.6%)	1(0.4%)	0(0.0%)
800万円以上	269(96.1%)	9(3.2%)	0(0.0%)	2(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)

図14 「家族全体の収入の合計額」と「食事の内容」のクロス集計グラフ



【結果4-3】

「家族全体の収入の合計額」と「食事の内容」との関係では、食材を調理したものを食べる割合が圧倒的に多いが、無収入の世帯と150万円～250万円未満の世帯では、90%を下回った。

また、スーパー、コンビニ等で購入した出来合のお弁当やインスタント・レトルト食品を食べる割合も350万円未満の世帯では相対的に高い。

◎設問 4

『食事の提供を含む食生活改善が必要なのはどのような世帯か。』

のまとめ

・「無収入、低収入の世帯では、朝食を毎日食べる割合が低い。」

朝食を食べる割合は、収入の高い世帯（家族全体の収入合計が 550 万円以上の世帯）では 94.5%ほどであり、それ以上収入があっても朝食を毎日食べる割合に変化はなかった。また、収入がそれ以下になると「毎日は食べない」世帯が増える。特に無収入の世帯では朝食を食べる割合が低く 76.9%となっている。

・「夕食を一人で食べる子どもがいる」

無収入の世帯を除き、どの収入の世帯でも、夕食を一人で食べる子どもがいる。

・「世帯収入合計が 350 万円未満の世帯では、出来合いの弁当やインスタント・レトルト食品を食べる割合が高い。」

世帯の収入合計が 350 万円以上の世帯では、家庭で調理したものを食べる家庭が 95%以上であるのに対し、世帯の収入合計が低くなると、出来合いの弁当やインスタント・レトルト食品を食べる割合が高くなる。

◆見えてきた課題

今回、大泉町「子どもの生活」実態調査を分析した結果、子どもの成長段階に応じた切れ目のない支援策、貧困の連鎖を断ち切るための子どもの貧困対策を推進するため、次の支援策について検討する。

1. 子どもの居場所づくり

「安心してほっとできる場所がない子」は、放課後は公園や校庭、町の施設などで過ごすことが多い。

また、身近に話しを聞いてくれる人がいないと「ひとりぼっちだと思う」傾向がある。

家庭や学校以外で人とふれ合える「居場所」を作ることで、子どもの情操を育む必要がある。

2. 子どもの学習支援

無収入や収入の低い世帯では、家庭でほとんど学習しない子の割合が高く、家庭での学習習慣の確立を目指すため、学習支援が必要である。

学習支援への参加希望も、収入の低い世帯や子どもに関連する費用を制限している世帯の参加希望が高いことから、参加者については、収入の低い世帯等を中心に対応していく必要がある。

3. 食糧（食育）支援

世帯収入が350万円未満の世帯では、スーパー、コンビニ等で購入した出来合のお弁当やインスタント・レトルト食品を食べる割合が高い。

また、夕食を「一人で食べる」、「子どもたちだけで食べる」と回答した割合も8.0%あり、栄養のバランスや楽しい食事を考える上で、大人数で食卓を囲めるような場を検討していくことも必要である。

4. ひとり親家庭への就労支援

ひとり親家庭は、収入の低い世帯が多い。収入の低い世帯では、子ども関連の支出を制限する家庭が多く、家庭で学習しない子の割合も高い。

子どもの生活、学習環境を整える一環として、ひとり親家庭の就労支援に取り組む必要がある。

今回の調査で頂きました多数の自由意見につきましては、今後、町施策を行う上での参考とさせていただきます。

本調査にご協力頂きました児童・生徒並びに保護者のみなさまには、感謝申し上げます。